

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2010年度 No.64



徳山工業高等専門学校

目次

ホームページTop Newsで綴る徳山高専この1年 ……	1
特集：	
英語力を身につけて Global-minded Engineerを目指そう! ……	6
第36回 高専祭を終えて ……	14
学寮リフォーム紹介 ……	16
留学生だより ……	18
就職・進学状況 / 就職・進学試験体験記	
本 科 ……	22
専攻科 ……	28
卒業生だより ……	31
徳山高専同窓会「高城会」から ……	34
退職者あいさつ ……	37
新任者紹介 ……	41
徳山高専きらめきコンテスト ……	44
図書館時間外開館補助員の感想 ……	48
編集後記	

※注（本文記事中略称）

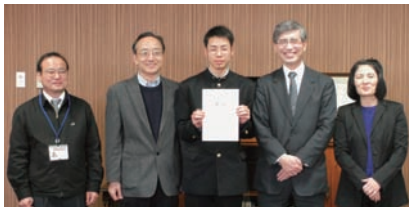
ME＝機械電気工学科 IE＝情報電子工学科 CA＝土木建築工学科

徳山高専この1年

※注 学年は開催時

日本情報オリンピック本選出場決定！

2010年1月



第9回日本情報オリンピック予選が12月13日に行われ、年齢が高校2年迄の生徒・学生500名以上が全国一斉にWeb上で競い合いました。本校からも3名が参戦しましたが、当日は予選実施システムに障害が発生し2時間の延長戦となるなど長時間の緊張が強られる戦いとなりました。その中で情報電子工学科2年の中島淳平君が見事Aランクで合格し、2月14日に東京で開催された本選に出場しました。なお、Aランクは上位47名、予選通過者は61名でした。

全国大会で素晴らしいスピーチとプレゼンテーションを披露

2010年1月16日～17日



東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで第3回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストが開催され、本校からは機械電気工学科1年の茂山丈太郎君がスピーチの部に、機械制御工学専攻2年の角野初輝君、土木建築工学科5年の濱崎翔平君、土木建築工学科4年の中美紗里さんのチームがプレゼンテーションの部に出場しました。スピーチ、プレゼンテーションともに厳しい練習の成果を十分に発揮することができ、彼らの素晴らしいパフォーマンスは、聴衆を完全に魅了していました。

快挙！ダブル受賞「キャンパスベンチャーグランプリ中国」

2010年1月



1月27日、中国地方の大学、高専生らを対象にしたビジネスプランコンテスト「第8回キャンパスベンチャーグランプリ中国」の表彰式がありました。応募総数82件の中から、機械電気工学科4年の森岡佑太君が提案した「垂れない醤油注し」が最高賞のグランプリに選ばれ、機械電気工学科4年の山根健輔君が提案した「手の不自由な人のための足用キーボード」が環境・健康・福祉部門の優秀賞に選ばれました。グランプリを受賞した森岡君は3月3日に東京で開かれた全国大会へも出場しました。

パテントコンテスト高専部門で表彰

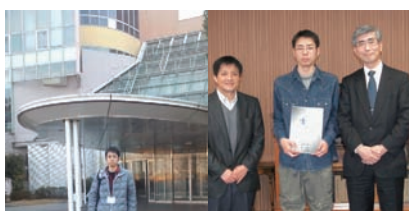
2010年1月29日



1月29日に行われた平成21年度パテントコンテスト表彰式において、機械電気工学科4年の右田哲朗君が「草取り道具」の発明で特許出願支援対象者に選ばれ表彰されました。今後はパテントコンテスト主催者からの支援により、弁理士のアドバイスを受け、特許出願・審査請求を行い特許権の取得を目指していくことになります。また表彰式では、昨年度「醤油差し」の発明で表彰された機械電気工学科4年の森岡佑太君が特許権を取得した経験などについてプレゼンテーションしました。

日本情報オリンピック本選で優秀賞を獲得

2010年2月



2月14日の日本情報オリンピック本選（東京・代々木）で情報電子工学科2年の中島淳平君が、本選優秀賞と中国・四国地区の最優秀賞を獲得しました。情報オリンピックは、課題に応じて短時間で作成したプログラムの正しさを競う、思考力や発想力が試される科学技術コンテストです。中島君は、本選成績上位者対象の国際情報オリンピック日本代表選考会（3月19日～25日）に参加し、アジア太平洋情報オリンピック（5月）にも参加しました。（写真左：本選会場オリンピック記念青少年総合センターにて 右：校長室にて）

はじける笑顔、新しい道を進め!!「卒業おめでとう」

2010年3月17日



第32回卒業式及び第14回専攻科修了式が本校第2体育館で挙行されました。マレーシア、ベトナムからの留学生を含む120名の本科卒業生に卒業証書が、専攻科修了生29名に修了証書とJABEE「設計情報工学」プログラム修了証が、校長から一人ひとりに授与されました。式終了後、後援会の主催で行われた祝賀会では、来賓や保護者のスピーチ、先生方を囲んだ記念撮影などで華やかなひとときを過ごしました。今後、皆さんの夢に挑戦され、社会に貢献されることを期待します。

理工系学生科学技術論文コンクール 優秀賞

2010年3月



全国の理工系大学、大学院、高専生を対象とした第11回理工系学生科学技術論文コンクール（日刊工業新聞社主催、文部科学省他後援）において、本校機械電気工学科4年山根健輔君が、応募総数417編の中で優秀賞を獲得し、贈賞式が3月17日に行われました。山根君は創造演習の授業で課題を見つける癖が身につき、その経験から手の不自由な人のための足用キーボードを思いついたこと、さらにこのアイデアを特許出願した経験やベンチャー関連のコンテストで入賞した経験などを踏まえて、これからの技術者を育てるには、このような創造的な教育が重要との提言を行っています。

森野教授、国立高等専門学校教員顕彰受賞

2010年3月23日



機械電気工学科森野数博教授が、独立行政法人国立高等専門学校機構主催による平成21年度国立高等専門学校教員顕彰において、文部科学大臣表彰を受賞しました。この賞は国立高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績が認められた者を、各校から推薦された教員の中から選考するもので、今回は「中央教育審議会における国の高専政策樹立のための審議に貢献したこと等」が評価されての受賞となりました。写真は、東京で行われた表彰式の様子です（前列中央が森野教授）。

入学おめでとう！ 第37回入学式および第16回専攻科入学式

2010年4月4日



桜が満開の4月4日、徳山高専に169名の入学生を迎えました。本校第2体育館で行われた第37回入学式では、機械電気工学科44名、情報電子工学科46名、土木建築工学科40名の本科入学生130名と4年次編入生2名、カンボジア、モンゴルからの留学生2名が、第16回専攻科入学式では3専攻35名が入学を許可されました。新入生の皆さん入学おめでとうございます。

友達できた！楽しかった!!野外炊飯は美味しかった？ 新入生合宿研修

2010年4月7日～8日



国立山口徳地青少年自然の家において、規律ある生活を通して連帯意識の高い生活習慣を学ぶとともに学生相互、教職員との交流を目的に新入生合宿研修が行われました。4、5年生の指導学生や校長、教職員と共にオリエンテーリング、野外炊飯などを協力して行いました。最終日には「ボクの夢・ワタシの夢」の作文が発表され、1年生が高専生活の第一歩を踏み出しました。

研究発表も交流も熱かった！

2010年4月23日～24日



香川高専の主管により、平成22年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会が高松市で開かれました。本校からは専攻科2年生36名、教員5名の計41名が参加しました。2日間とも、ポスター及び口頭により、特別研究のこれまでの成果を発表し、活発な質疑応答が繰り返されました。また、初日の夜には、中国・四国地区の専攻科生が一堂に会し、学校紹介のプレゼンテーションを楽しみながら、学校の枠を超えて、研究、進路、人生等について熱く語り合い、交流を深めることができました。

専攻科「産業論」開講中！

2010年5月



専攻科では、周南地域のコンビナート企業を中心に講師を派遣していただき「産業論」を開講しています。今年度からは、新たに出光興産(株)が加わり、5月14日には徳山工場副工場長の森岡忠信氏の講義が行われました。森岡氏は、企業概要の説明に続き、コンビナート業界の現況や、ご自身が技術者として経験された新商品開発にかかる業務などを熱心に語られ、32名の受講生にとっては、企業における管理・経営や、業務内容を知る貴重な経験となりました。

平原地区合同環境美化作業に参加 徳山高専学生会

2010年5月29日



真夏の日差しを思わせる晴天の中、平原地区合同環境美化作業が行われました。平原寿会が主催する本活動も今年で10年目となり、徳山高専学生会から30名と、徳山大学から岡野学長をはじめとする180名が参加しました。多くの学生が通学路として利用する道路沿いのゴミ拾い、草引きを行い、冬に積もった溝の枯れ葉を取り除きました。試験前のため1時間程度で作業を終え、竹ぼうきで一生懸命に掃いた階段は見違えるようにきれいになりましたが、手にできたまめはいつの間にかつぶれていました。

県高校総体 テニス、バドミントンで好成績 インターハイ出場決定！

2010年5月～6月



県高校総体が5月下旬からあり、テニスは3年寺本君・1年伊藤君組がダブルス優勝と活躍、シングルスでも寺本君が準優勝、伊藤君が3位となりました。また男子団体も3位でした。バドミントンは女子ダブルスで3年古城さん・河村さん組が優勝、河村さんは女子シングルスでも優勝し2冠を獲得しました。男子ダブルスでは3年藤山君・2年瀬島君組が準優勝、また男子団体も準優勝でした。この結果、沖縄で開催されるインターハイに、テニスは男子シングルス・ダブルス、バドミントンは男子ダブルス、女子シングルス・ダブルスへの出場が決まりました。(写真:テニス)

14年ぶりに全国大会に！徳山高専ハンドボール部

2010年7月



7月2日から呉高専を主管校に、大島商船高専、米子高専で開催された中国地区高専体育大会で、14年ぶりにハンドボール部が優勝し、全国大会への切符を手にした(写真)。また、バドミントン部も16年ぶりに団体優勝を果たし、団体戦では、卓球部、サッカー部、テニス部、バレーボール部と併せて6種目が全国大会に出場しました。個人戦でも、陸上競技部、卓球部、柔道部、剣道部、水泳部、テニス部、バドミントン部から多くの選手が出場するという快挙を達成しました。8月11日から陸上競技が開催されるのを皮切りに、東海・北陸地区で熱戦が繰り広げられました。

校内見学会開催

2010年7月17日



7月に第1回校内見学会を開催しました。これは参加者に本校の概要を説明し、施設・設備の見学及び各学科での体験コーナー等の企画を通して、本校に対する理解をより深めていただくために開催したものです。当日は好天にも恵まれ、県内外から中学生、保護者等合わせて約500名の来校者があり、どの企画も多くの参加者で賑わいました。

きらめきコンテスト ポスター決定

2010年7月



平成22年度きらめきコンテスト作品募集のポスター部門に5点の応募があり、選考の結果、情報電子工学科5年松本八希君の作品が選ばれ、7月28日に校長室で表彰式がありました。きらめきコンテストは、図書館が毎年、徳山高専生を対象に小説・童話部門、詩歌部門、読書体験記部門、エッセイ部門での作品を募集しているものです。

平成22年度第1回顧問会議を開催

2010年8月3日



平成22年度第1回顧問会議が開かれました。この会議は徳山高専の教育・研究活動等に対して外部の有識者からの検証を受けるために開催されました。8名の顧問が出席し、徳山高専運営委員会委員から、徳山高専の中期計画及び年度計画、教育点検システムの点検結果、学生相談室の活動、キャリア教育支援室の活動について説明がありました。各報告に対し、本校の発展及び今後の心すべき事項について活発な意見交換が行われ、有意義な会議となりました。

全国高専体育大会 & 西日本地区高専アーチェリー競技会で優勝！

2010年8月



第45回全国高等専門学校体育大会が8月11日～25日に東海・北陸地区で開催されました。徳山高専からは、7月の中国地区大会を勝ち進み全国大会出場を決めた選手たちが、団体6種目、個人7競技27種目に出場しました。団体戦では卓球が優勝し、個人種目では、卓球男子シングルス、テニスの男子シングルス・男子ダブルス、バドミントンの男子ダブルス・女子シングルス・女子ダブルスの計3競技6種目で優勝しました。西日本地区高専アーチェリー競技会（8月23、24日）でも、男子個人・女子個人・女子30mダブルで優勝し、学生たちが大活躍した夏休みでした。（写真：卓球部）

県内3高専合同説明会開催

2010年8月26日



ゆめタウン山口において、宇部高専・大島商船高専とともに3高専合同説明会を開催しました。「きっと見つかる！キミの目指す未来」と題し、学校紹介ビデオ上映、ポスター展示、サイエンスショー、巨大UFOキャッチャー操作体験、高専口ポコン出場口ポットの操縦体験等を行いました。本校室長教授による液体窒素を使ったサイエンスショーでは、2回実施予定だったところを3回に増やして実施し、幼児から大人まで約200人の来場者で賑わった説明会は大盛況となりました。

小川准教授 高専機構理事長賞受賞

2010年8月28日



平成22年度全国高専教育フォーラム・教育教員研究集会（8月27日～28日開催）で、一般科目小川仁志准教授が高専機構理事長賞を受賞しました。受賞論文は「『哲学カフェ』の実践から判明した効用について—市民と学生の交流による相乗効果—」です。日頃の「哲学カフェ」での教育や地域活動への貢献と、その実践から判明した効用に関する優れた分析が評価されたものと思われます。当日はプレゼンテーションについても審査があり、「哲学カフェ」で培われた人を引きつける発表に対しても、高い評価があったものと思われます。（写真：校長と小川准教授（左））

専攻科インターンシップ報告会

2010年9月24日



専攻科1年生によるインターンシップ報告会が、本校メディアホールで行われました。企業・大学院・市役所などの受け入れ先での2ヶ月間以上にわたる長期実習の成果が、学生代表9名による発表と学生35名全員によるパネル発表で報告されました。報告会には受け入れ企業の方も含め約70名が参加し、発表内容に対して活発な質問がなされ、体験してきたばかりのリアルな内容の応答が印象的でした。ひとまわり成長して帰ってきた専攻科生の姿がそこにありました。

千葉国体 なぎなた成年演技で3位入賞！

2010年9月27日



第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」で、千葉県我孫子市で行われたなぎなた競技に出場した土木建築工学科5年の椎木英理子さんが、成年演技で3位に入賞しました。山口県勢として最初に千葉国体の表彰台に登るという快挙でした。成年試合の部では初戦敗退しましたが、2位に入賞した和歌山県チームと互角の戦いを繰り広げ、今後の活躍が期待できる試合内容でした。来年は第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」が山口県で開催されます。なぎなた競技は下関市でおこなわれますので、皆さんの応援をよろしくお願いします。

環境リサイクル活動優秀クラスを表彰

2010年10月5日



平成22年度前期環境リサイクル活動において、資源ゴミの分別状況が優秀だったクラスの代表(環境委員)に、感謝状が授与されました。今回感謝状を授与されたクラスは1年2組、機械電気工学科4・5年、情報電子工学科3・4年、土木建築工学科2・3年です。徳山高専では、学生自身の手による環境リサイクル活動(資源ゴミの分別・チェック・ゴミの減量化等)に力を入れています。感謝状授与式では「資源のリサイクルと地球環境の保護は、技術者の基本マインドであり、クラス全員の日頃の努力に感謝します」と平野校長より激励の言葉がありました。

全国高専プログラミングコンテスト 自由部門で特別賞

2010年10月16日～17日



高知市文化プラザかるぼーとで行われた全国高等専門学校第21回プログラミングコンテストで、本校から自由部門に出展した作品「ガリガリはんがリアン-コンピュータではじめる木版画-」が特別賞を受賞しました。この作品はヘッドマウントディスプレイを装着し、拡張現実の世界で仮想的な木版画を行うシステムであり、情報電子工学科の創造演習で製作した作品を手直したものです。また、課題部門に出展した作品「ふれんだー旅館の友-」は敢闘賞を受賞し、競技部門は準々決勝進出でした。

英語スピーチで3位入賞!!

2010年11月5日～6日



本校の主管で行われた第26回中国地区高等専門学校英語弁論大会(会場:徳山大学)に情報電子工学科3年河野真実さん、機械電気工学科2年尾崎友亮君、情報電子工学科1年吉永佐貴さん、土木建築工学科1年上重望さんが出場し、吉永さんがスピーチの部で3位入賞というすばらしい結果を残すことができました。今回は全員初出場でしたが、ベストパフォーマンスを披露することができました。また、教職員・サポート学生の献身的な働きにより、主管校としての運営も好評を博しました。応援、ご協力を有り難うございました。

全国高専デザコン2010 審査員特別賞受賞

2010年11月13日～14日



八戸市公会堂で行われた全国高等専門学校デザインコンペティション2010の環境・構造・空間デザイン部門に、予選を通過した本校の4チームが出場しました。その結果、構造デザインチームの「らち☆すた」と環境デザインチームの「生活排水で発電～明かりをつけちゃろう!～」が審査員特別賞を受賞しました。「らち☆すた」は、戦争遺産のラチス桁橋を人命救助ための応急橋に生まれ変わらせ、わずか300gの重さで100kgの荷重に耐える構造の美しさ、そして、「生活排水で発電」はマンションなどの高層ビルで生じる生活排水を発電に利用するアイデアが評価されました。

美術部の自主製作映画が観客賞を受賞

2010年11月



美術部映画研究会が製作した映画『明日エクスプレス』が、「第1回周南ショートフィルムフェスティバル」の観客賞を受賞しました。周南ショートフィルムフェスティバルは、11月20日、21日に徳山商店街の映画館シネマ・ヌーヴェルにて開催された、「第2回周南映画祭～絆～」のプレイベントとして位置づけられ、観客による審査が行われたものです。情報電子工学科3年の舛野正和君が脚本・監督を務め、完成度の高い作品に仕上がっています。(画像:映画のタイトル画面)

第3回中国地区高専テクノ・マーケット in 山口

2010年12月4日



国立高専機構と中国地区8高専主催の第3回中国地区高専テクノ・マーケット in 山口が開催されました。中国地区や近隣企業、就活キャリア教育に参加した全国企業等から約400名が出席しました。午前中、中国経済産業局湯浅部長の特別講演があり、午後は、五十嵐高専機構理事、福政宇部高専校長の挨拶に続き、(独)宇宙航空研究開発機構技術参与向井博士より小惑星探査機「はやぶさ」の基調講演がありました。その他、高専と企業間の共同研究の成功事例発表、技術相談等が開かれ、活発な情報・意見交換が行われました。

英語力を身につけて

Global-minded Engineer を目指そう！

—英語科の活動紹介—

一般科目英語科主任 国重 徹

Hello, everybody! 徳山高専の英語科は、学生が「世界に通用する技術者」(Global-minded Engineer)の資質の一つである英語によるコミュニケーション能力を少しでも向上できるように、教員が一丸となり、日々いろいろな取り組みをしています。例えば、通常の授業以外に、英語多読指導、資格試験のための指導、英語弁論大会等の指導などが挙げられます。他の教職員の方々からの協力のおかげで、少しずつその取り組みの成果が出始めました。そこで、本特集では、読者の皆様に英語科がどのような取り組みをしているのか等を紹介してみようと思います。

申し遅れましたが、私がこの記事の案内役、英語科の国重です。今回英語科の活動を知っていただくために、英語科の教員、英語弁論大会などに参加した学生、英語科以外の先生やその他の学生に、「英語科の取り組み」や「弁論大会に出場して感じたこと」などについて文章を書いていただきました。

以下の記事を読み、英語を本格的に勉強してみよう、多読を始めてみよう、英語弁論大会に出てみようと感じていただければ最高です。

英語はコミュニケーションのためのツール（道具）です。どんなツールでもうまく使えるようになれば、便利ですし、生活が豊かで楽しいものになります。さあ、Global-minded Engineerを目指して楽しい英語の世界に一步踏み出してみませんか？



皆様は、英語が好きですか？英語は楽しいですか？それとも、英語は苦手だから嫌いでしょうか？英語が苦手な人や、英語アレルギーの人にぴったりの英語学習法があります。それが英語多読です。英語多読は苦手な人だけでなく、得意な人、好きな人にも大きな学習効果があります。本校では、今年度から1年生と3年生に多読の授業を取り入れてみました。その結果、それまでは英語に対して苦手意識の強かった学生も、楽しみながらやさしい英語の本をたくさん読み、英文を読むことの楽しさを感じ始めているようです。また、非常にたくさん読んだ学生（例えば30万語以上）の多くは英語力がアップし始めています。

そのような、楽しくも学習効果の高い英語多読などについて英語科の高橋先生が書かれた記事を読んでみましょう。

英語多読を導入して

一般科目英語科 高橋 愛

高専生について、「高度な専門知識や技術があるものの、英語力では劣る」といわれるようになって久しいといえます。残念ながら、こうした状況は徳山高専でも例外ではありません。海外インターンシップ、英語弁論大会・プレゼンテーションコンテスト、TOEIC等の資格試験に積極的に参加し、英語に対する意欲・関心がきわめて高い学生がいるいっぽうで、英語に対して強い苦手意識をもつ学生が少なくないのです。



敵意といってもいいほど強烈な英語に対する苦手意識に頭をかかえ、打開策を求めた際に出会ったのが、「SSS多読」でした（“SSS”とは“Start with Simple Stories”の略）。「SSS多読」は、「辞書はひかない」、「分からなければとばす」、「つまらなければやめる」という三原則のもと、きわめて易しい英語で書かれた絵本からスタートし、英文を大量に——累積語数100万語突破を目標に——読みすすめるというものです。学習者が自分の学習レベルや興味・関心に応じて教材を選択し、自分のペースで学習をすすめることができることから、「SSS多読」は、英語に強い苦手意識をもつ学生はもちろん、高い英語力をもつ学生にも適した学習法だといえます。

そこで、まず平成21年度に、徳山高専夢広場の企画として「英語多読教習所」を開始し、翌年には、本科1年生と3年生の授業で本格的に導入をしました。英語多読は学生にも好意的に受けとめられ、その輪は着実に広がっています。多読の効果は、英語学習に対する意欲の向上という形で現れたといえます。

語学の習得には、統合的動機づけ——相手の国の文化への興味・関心といったもの——と道具的動機づけ——受験や就職といった実利にもとづくもの——という二つの動機づけが必要です。本校では、英語多読の導入によって、学生の統合的動機づけが高められているといえます。学生の英語力をさらに高めていくため、「英語力向上タスクフォースII」の提言により進められている道具的動機づけを向上させる取り組みと協調しつつ、統合的動機づけのための活動である多読を英語科として推進していきたいと思っています。



多読用図書：いつでも貸し出します

英語多読はとても楽しいので、一緒に始めてみませんか？英語科ではいつでも多読用図書を貸し出しますので、気軽に研究室に来てください。

さて、本校は工業高等専門学校ですから、工業英語の力も是非身につけていただきたいです。そこで、次は工業英検を主に担当して下さっている長戸先生の記事を読んでください。

工業英検について

一般科目英語科 長戸 喜隆



工業英検はTOEICや実用英検に比べるとマイナーな存在ですが、高専生には是非3級までは、取得してもらいたい資格です。3級まではすべてマークシートですが、英語の論文を読んだり書いたりするにも、自分の研究を英語でプレゼンをするにも必要な基礎的英語力を身につけることが出来ます。合格すると3級以上は特別履修単位が認められ、受験料も半額返ってきます。（履歴書に書けます。）英語科目に加点する取得者優遇制度も4級から認められていて、学校として取得を奨励しています。

受験機会は年2回で、毎年5月の最終日曜日と11月中旬の日曜日に本校で行われます。ここ2～3年の合格率は4級が毎回65%前後、3級は、ばらつきがあり、15%前後といったところです。3級合格率を上げるためには、英語そのものの力を上げないといけないので、対策プリントだけでなく普段の英語の授業にも力を注いでください。

工業英検もTOEICや実用英検と同じく、付け焼刃ではなく、平素の努力が必要だということが分かりましたね。授業を中心に、コツコツと英語力を伸ばしていきましょう。

さて、次は英語科が特に力を入れている中国地区高専英語弁論大会や全国高専英語プレゼンテーションコンテストについてです。指導する英語科教員と参加する学生が一つになって、よりよいスピーチやプレゼンテーションをすることを目指して取り組んだ結果、ここ数年中国地区高専英語弁論大会では暗唱の部、スピーチの部共に優勝を重ねています。また、今年で4回目となった全国高専英語プレゼンテーションコンテストでは、2回目に初出場して以来連続して予選を通過し、3年連続で全国大会

に出場することができました。

では、そのコンテストに出場した学生の記事を楽しんでください。

最初は、中国地区高専英語弁論大会で暗唱の部、スピーチの部の両方で優勝した波多野さんです。

英語スピーチコンテスト・英語プレゼンテーションコンテストに参加して

土木建築工学科4年 波多野 さやか



私は2年生の時に初めて中国地区高専英語弁論大会に出場しました。その時は、スピーチの部に出ましたが、運よく優勝し、全国大会に出場することができました。3年生の時は、暗唱の部に出て再び優勝することができました。そして今年は全国高専英語プレゼンテーションコンテストにメンバーの1人として出場し、予選を勝ち抜いて東京で開催された本選に進むことができました。

英語科の先生方の指導のおかげで、英語に関して楽しくて充実した経験をすることができました。有り難うございます。

これまで英語のスピーチコンテストに携わってきて、私は英語の必要性を痛感しました。特に、英語を使って他の人とコミュニケーションを取れるようにすることが大切だという思いが強くなりました。

今後は、TOEICのスコアを今よりも上げることと、英会話の力に磨きをかけたいと思います。また、私は専攻科に進学する予定なので、進学できたら海外インターンシップに是非参加しようと思っています。

いかがでしたか？波多野さん、素晴らしい活躍でしたね。では、次は、とてもまじめに練習に取り組んでくれた河野さんです。

情報電子工学科3年 河野 真実



私はこれまで英語のスピーチコンテストなどには全く縁がありませんでしたが、今年国重先生に突然声をかけられ、高専で初めて英語弁論大会に出場させていただきました。初めてのことでしたので、練習の時からとても不安で、緊張しました。しかし、英語の先生方がやさしく熱心に指導してくださったおかげで、徐々に自信がつき、本番でも失敗せず堂々とスピーチを披露することができました。

スピーチコンテストを経験させていただいて、英語に対して少し自信もつきましたし、もっと英語力を伸ばしたいという気持ちも出てきました。

今後はTOEICなどの資格試験に向けて、特にリスニング力のアップを目指していきたいと思います。

スピーチコンテストは私にとってとてもいい経験になりました。

河野さんは、初めての経験でしたが、大変よく頑張ってくれました。どうも有り難う。次は、堂々と迫力のあるスピーチを披露してくれた尾崎君です。

機械電気工学科2年 尾崎 友亮



私は中学2年、3年の時に英語スピーチコンテストに出たことがありました。スピーチには興味を持っていましたが、今年高専で初めて国重先生に声をかけていただき、中国地区高専英語弁論大会に出場しました。

大会前には、ロボットコンテストの準備もあり、原稿を覚えたりすることが大変でしたが、

何とか間に合いました。本番では、思い切って自分のスピーチをすることができました。

この英語スピーチコンテストを通して、英語力も伸びましたし、とてもいい経験ができました。今後は、実用英検2級取得やTOEICスコア470の取得を目指してさらに努力していききたいと思います。

尾崎君の力強いスピーチは、聴衆を魅了していました。有り難う。次は、いい雰囲気での暗唱で、これまた聴衆を魅了してくれた上重さんです。

土木建築工学科1年 上重 望

私は中学2年、3年の時に英語弁論大会に出場しました。授業での英語は読んだり書いたりすることが中心でしたが、弁論大会の練習は聴いたり話したりすることが中心だったので、とても楽しく継続することができました。

高専では、中学生の時に身につけたことを活かし、できるだけ楽しく自分の気持ちを他人に発信できるように心掛けて練習をしました。大会では、5分間という与えられた時間をこれまでで最も楽しく演じ切ることができました。

これからは、次回の英語弁論大会に向けて、練習を頑張るとともに、将来の夢である留学を叶えることができるように日々勉強していききたいと思います。



上重さんの暗唱はデリバリーも最高で、聴く人が完全に引きつけられていました。では、次は1年生ながら活躍をしてくれた吉永さんです。

情報電子工学科1年 吉永 佐貴

私は、中学生の時に1度英語のスピーチコンテストに出場したことはありましたが、高専でもそのような英語のスピーチコンテストがあることは知りませんでした。しかし、ある日、英語科の国重先生にコンテストに出ないかと誘われて、中国地区高専英語弁論大会に出場することになりました。私はスピーチの部に出場し、畳に象徴される日本文化と海外の文化との違いや融合について話しました。とても緊張しましたが、何とか3位に入賞することができました。先生方の指導に感謝しています。

今後も英語関連のコンテストに積極的に出場したり、英語の資格取得を目指したりすることにより、英語力の向上に努めたいと思っています。また、英語圏への留学も是非実現させたいです。



吉永さん、これからも、留学、コンテスト、資格取得に頑張ってください。次は、今年度本校が主管した中国地区高専英語弁論大会で、大会サポート学生として学生交流会を大いに盛り上げてくれた前学生会長の木村君の記事をどうぞ。木村君は1月のTOEICでスコア730を取得しています。

機械電気工学科4年 木村 桂大

はじめまして。この度弁論大会に補助員として参加した学生会長の木村です。僕の参加は国重先生が弁論大会に出場しないかと誘ってくださったのが始まりでした。しかし、その時は会長として高専祭という一大イベントを担う身だったので一度は断り、補助員だけならと参加することになりました。

僕が任されたのは主に出場者一同によるレクリエーションを兼ねた食事会で、どうしたら初対面同士で楽しい時を過ごせるのか悩みました。悩んだ末出来たのが英語を使ったしとりゲームです。相手は弁論大会に出るような人達ですから出題のレベルはかなり高いものを選んで飽き飽きさせないような配慮をしたり、チーム戦方式にしてなるべくコミュニケーションを取りやすくしたりと僕なりに工夫を凝らしました。



小一時間の短い時間でしたが皆さんに楽しんでもらえたようで嬉しかったです。また、英語を使ってのゲームということで英語を学ぶ楽しさを伝えることが出来たし、僕自身も英語学習への良い励みになりました。

最後に、弁論大会を通して感じたのが、何も机について勉強するだけが英語学習では無いということです。このようなスピーチの場にチャレンジするのもよし、映画の字幕版を見るのもよし、好きなマンガや童話の英語版を見てみるのも楽しいでしょう。僕も大学受験を控える身ではありますが、試験に解答するためだけの英語ではなく、日常に溢れる英語を掴む力を養うことを忘れないようにしたいです。

木村君、忙しい中、大会を盛り上げてくれてどうも有り難う。次は、アメリカ留学の経験を活かしてプレゼンテーションコンテストに出場した中美さんです。

土木建築工学科5年 中美 紗里



私は3年生の夏から1年間アメリカのテキサス州にある高校に留学しました。この留学経験を英語の先生方が買って下さり、4年の時に初めて全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出場しました。それまで人前で話すのはあまり得意ではありませんでした。ましてや英語を使って人前で話すことができるのかと最初は不安でしたが、英語科の先生方の熱心な指導のおかげで、自信を持って全国大会でプレゼンテーションを披露することができました。

私にとって高専最終学年である今年もプレゼンテーションコンテストの予選を通過し、2年間連続して全国大会に出場することができました。今年是我的所属する土木建築工学科への志願者数を増やす作戦について発表をしました。

この大会への出場を通して、英語の力が伸びただけでなく、全国各地から出場する高専生の発表を見ることで、刺激を受けました。

私は卒業後、企業に就職しますが、まだまだ自分の英語力は十分とは言えないので、これからさらに英語力を磨く努力をし、さまざまな人々と英語でコミュニケーションを取れるようになりたいと思います。

中美さん、卒業研究のまとめの最も忙しい時によく頑張ってくれました。有り難う。さらに優れた英語コミュニケーション能力を目指してください。では、次は3年間続けてプレゼンテーションコンテストのチームを引っ張ってくれた濱崎君です。濱崎君は1ヶ月に多読で10万語を読破し、TOEICスコア880を取得しています。

環境建設工学専攻1年 濱崎 翔平



私は帰国子女なので、中国地区高専英語弁論大会には出場資格がありませんでした。しかし、本科4年生の時に、国重先生の誘いにより、出場資格のある全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出ることになりました。その後、5年次、そして専攻科1年生である今年も連続で予選を通過することができましたので、通算連続3回全国大会に出場したことになります。

全国大会に出場することで最もうれしいことは、東京に行った際、前校長の天野徹先生が毎回応援に駆けつけてくださることです。

プレゼンテーションの練習は、授業の課題や研究と重なることが多いので、時間的には辛いこともあります。しかし、セリフを何度も繰り返して発音するという練習は、英語力、特にリスニングの力を確実に伸ばしてくれました。

私は専攻科修了後、大学院に進学したいと考えています。最近では多くの大学院で、受験資格にTOEICスコア提出を義務付けています。そこで、私もTOEICのスコアアップを目指して努力していますが、最近効果的だと感じているのが、英語の多読です。1ヶ月で約10万語の多読をした後にTOEICを受験してみました。前回のスコアより100点アップしました。多読により読解力の伸びを実感しています。

年末から年始にかけて、私は海外インターンシップに参加し、トルコの大成建設に行きました。異文化社会で現地の技術者に英語での確かな指示を出している日本人社員の姿を目の当たりにし、自分のコミュニケーション能力のなさを痛感しました。

今後は、日本語と同じように自由に英語を操れるレベルにまで自分の英語コミュニケーション能力を高めていきたいと思います。



プレゼンテーションの
発表風景

濱崎君、海外インターンシップや英語での学会発表など、非常にタイトなスケジュールの中、チームをまとめてくれて有り難う。今後も多読を続けて、さらに英語力を磨いてください。

さて、次は、英語科が実施しているさまざまな活動について茂山君が書いてくれた記事を読んでみてください。茂山君は1年の時に中国地区高専英語弁論大会のスピーチ部門で2位以下に大差をつけて優勝しました。今年度本校が主管した中国地区高専英語弁論大会では、大会サポート学生として、司会を担当し、大会後には、参加者の写真を音楽つきDVDにまとめて参加校に送付するなど、献身的にサポートしてくれました。また、2年生ながらTOEICスコア785を取得しています。さらに、八戸高専主催のマレーシア国際交流研修にも参加してくれました。

徳山高専の英語科の活動について

機械電気工学科2年 茂山 丈太郎



徳山高専の英語科では、TOEIC対策・英検対策など、じっくり勉強をして成果を出すための学習目的としての活動や、“いんぐりっしゅ☆る～む”や“英語多読教習所”、“全国高専英語プレゼンテーションコンテスト”への出場などの実践力をつけるための活動が活発です。僕は“いんぐりっしゅ☆る～む”や、スピーチコンテストなどへの参加を通して、確かに実力がアップしていることを、身にしみて感じています。特に、入学当時からの1年間で様々な英語科の行事に参加した事で、TOEICの点数が大幅にアップしたことには驚いています。

英語科の活動は、普段の理工系の勉強と部活動との両立の大変さを感じさせないほど“Natural”で、普段から英語科に親しみを持つ事で、単語力の増強や文法構成の習得が自然とできます。英語科の先生は“Friendly”で、気が向いたときに研究室に足を運ぶと、自分に一番適した英語に関する書籍などを、気軽に貸し出してくれます。

毎週金曜日に開かれる“いんぐりっしゅ☆る～む”は、ネイティブスピーカーと英語で語り合うことの出来る数少ない経験ができる場所です。本物の英語とふれあい、身につけてゆく素晴らしい機会が、徳山高専英語科では用意されています。

理工系学生の英語教育が重要視されている中、ストレスを感じさせない我が校の英語教育は、まさに学生に“Match”しているのではないのでしょうか。

茂山君、今後も英語力向上のリーダーとして徳山高専英語科の活動のサポートをお願いします。次は、私の研究室で卒業研究を行ってくれた上原君の記事をお楽しみください。上原君は、英語の教師になるため、山口大学人文学部に編入し、英語学を専攻する予定です。

英語科研究室での卒業研究を経て

機械電気工学科5年 上原 尚輝



私が、卒業後の進路を考える際に、機械や電気といった分野に携わること以上に興味を持ったのは「英語教師」という職業でした。学生生活を送る中で、英語を通して学生たちに様々なことを教えることが出来る職業に次第に憧れを持つようになり、このような思いから、卒業研究では英語科の国重研究室で英語に関連した研究をすることに決めました。

現在、「高専生に適した英語のテキストの作成とその有用性の検証」というテーマで卒業研究を行っています。この研究を通して、英語の文法の複雑さを改めて感じ、それだけではなく、英語の文法を学習者にわかりやすく説明することの難しさを痛感し、生徒に英語を教えるためには、自分自身が更に英語に精通しなければならないと改めて思いました。

私は卒業後、工学部ではなく、他学部へ編入し、英語学を専攻することが決まりました。英語力もまだまだ足りず、理系から文系に転科することで戸惑うこともあるかもしれませんが、これからも更に英語を勉強し、また大学生活で学ぶ多くのことを将来の夢の実現に繋げていきたいと思えます。

上原君、最後まで卒業研究、英語学習、よく頑張りました。大学では、さらに英語力、人間力を鍛えて、素晴らしい教師になってください。

では、次に英語科の活動を応援し、サポートしてくださっている一般科目の元気印、小川先生の記事をどうぞ。

一丸となって英語力アップ！

一般科目 倫理・哲学担当 小川 仁志

私は日頃倫理・哲学を教えています。英語に親しむ同好会の顧問をしている関係もあって、ほぼ毎回「いんぐりっしゅ☆る～む」には参加しています。したがって英語教育にも非常に関心があります。とりわけグローバルな環境が進展し、企業も英語力を求める時代にあって、高専の学生には今後ますます英語力の強化が求められます。その点本校の英語科は、常に時代のニーズにあった授業を展開すると同時に、英語力を伸ばすための機会に積極的にチャレンジすることを促進しているものといえます。

新しく導入された授業の中で、特に私が素晴らしいと思うのは多読です。多読というのは、簡単な英語の文章を大量に読むことです。授業にこの多読を取り入れた



200回目の「いんぐりっしゅ☆る～む」の様子

ことによって、学生たちが英語の本を読む楽しさを覚えました。授業中だけでなく、毎日のように英語教員の部屋に本を借りに行く学生たちの姿が目立つようになりました。これは明らかに英語に親しむ層の底上げにつながっているものと思われます。“Practice makes perfect (習うより慣れろ)”という格言のとおり、英語は言語ですから、ある程度の量に触れないことには上達しません。それは教科書の勉強だけでは不十分なのです。多読はその部分を補うものとい

えます。

また、英語力を伸ばすための機会という点では、各種コンテストへの熱心な取り組みを挙げることができます。スピーチコンテストやプレゼンテーションコンテストの直前になると、英語教員は毎日夜遅くまで懇切丁寧な指導をしています。その姿に心を打たれ、私も内容面でのアドバイスをしたりしています。その結果いつもいい成果が出ています。やはり優れた成果は熱心な指導に比例するものです。

実は2011年度、私はアメリカのプリンストン大学にて在外研究を行うことになっています。自分の研究だけでなく、英語教育という視点からも多くの収穫を得てくることで、本校学生の英語力を側面からサポートしていきたいと考えています。これからは全教員が一丸となって、グローバル化に対応した教育を担っていく必要があると考えるからです。私自身の決意も込めて、最後にクラーク博士のあの名言をもじらせていただきたいと思います。“Boys, be global!”

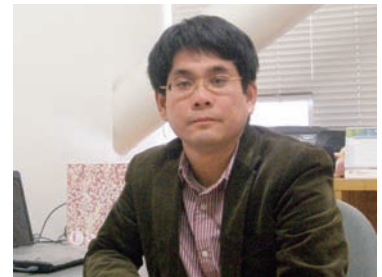
小川先生、プリンストン大学でglobalになった姿を帰国後の「いんぐりっしゅ☆る～む」で披露してくれるのを楽しみにしています。Bon voyage!

それでは最後に、今年度1年間人事交流で徳山高専の英語科に所属し、さまざまな活動を一緒に担当してくださった菊池先生の記事を読んでください。

■ 徳山高専での1年間を終えて

一般科目英語科 菊池 秋夫

人事交流で青森の八戸高専からきて、今年度1年間、徳山の皆様にお世話になりました。授業、イングリッシュルーム、多読教習所、キャリア支援などを通じ、学生と関わってきて、全体的にポテンシャルが高い学生が多く、先生方の手厚い指導で立派に育っている印象を強く受けました。着任以前から、徳山はスタッフも学生もレベルが高いという噂を聞いていましたが、それを裏付けた感じです。



具体的に言葉に表すのは難しいのですが、おおよそ次の3つの理由を感じました。まず、変化を恐れないことです。駄目かもしれないけど面白そうだからやってみよう、という前向きな挑戦姿勢。二つ目は、継続的な努力。プロジェクトや企画を立ち上げるだけでも相当のエネルギーを使いますが、続けていくのも並大抵のことではありません。三つ目は、学生に常に上を目指すことをさまざまなレトリックを使って語りかけていたことです。授業のとき、引率のとき、休み時間に教員室で、あるいはTOEICの会場などで、英語の先生方が、学生の状況を常に把握し、スコアが上がった学生をpraiseし、下がった学生をencourageし、学生たちに「自分たちは見守られている」という感覚を持たせているように思いました。そのためか、英語に拒否感を持っている学生の割合は八戸に比べて少なく、英語に興味を持つ学生の割合は相対的に多い感じです。先生方の献身的な努力に敬服し続けた1年でした。

わずかな間でしたが、見学や講演だけでは得られないかけがえのない経験をいくつもさせていただきました。残念ながら私の力不足のためいろいろ至らなく、学生や同僚の皆様に使っていただけてばかりで、恐縮の限りです。心からのお礼を申し上げます。また、これからも、各高専の枠を超え、高専生全体のコミュニケーション力、英語力向上のため尽力していきたいと思っています。

菊池先生が協力してくださったおかげで、本校が主管した中国地区高専英語弁論大会を無事終えられたのを始め、「いんぐりっしゅ☆る～む」や「英語多読教習所」などの活動も全て成功裏に終わることができました。本当にどうも有り難うございます。そしてお疲れ様でした。またいつでも徳山高専に遊びに来てください。

さて皆様、英語科の活動に関する記事はいかがでしたか？英語科はこれからも学生の英語力向上のために、全力でさまざまな活動、取り組みを実施していくつもりです。英語に関する質問や相談がある時はいつでも研究室に来てください。また、今後とも英語科の活動に対してご協力をよろしくお願いいたします。

第36回 高専祭を 終えて

■学生会長 木村 桂大

会長という重圧のかかる立場の中、気が重くなるような事も多かったですが、毎日いろいろな人と係わり、話し合い、作業することで各部署が少しずつ完成形へと近づいていきました。

その様は一つのパズルが組み上がっていくみたいで出来上がりがとても楽しみでした。組み上げたピースを吹き飛ばすかの如く台風がやってきましたが、役員の皆、高専のスタッフの方々の迅速な対応のおかげで最高の高専祭になりました。

これだけの企画を指揮することはもう無いかもしれませんが、ここで得た確かな自信はこれからの僕の支えとなると思います。

最後に、関わった全ての皆さんに深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

■高専祭実行局局長 福本 哲己

今思えば、「台風に感謝♪」。

こんなに貴重な経験は2度とないでしょう。これもひとえに見に来てくださった方々、支えてくださったすべての方々のオカゲです。

今年は季節外れの台風14号が直撃し、中止という前代未聞の事件も考えられました。自分が実行委員長を務めている代での中止は、本気で避けたかったわけです。無事成功で終えて、ホント…感無量です！！

最後に一言……「台風に感謝♪」。やっぱりね(笑)

■メイン 岡藤 勇希

メイン企画部署長の岡藤です。今年の高専祭は未だかつてない挑戦をしようと思い、フラッシュザウルス(東京フレンドパーク)に挑戦しました。

実際にやってみて、当日は多くの来客があり、多くの反響の声があつて、メイン企画一同喜んでおります。来年はまた後輩たちがすごいものを作ってくれると思うので皆さん来年からもどんどん行きましょう。

来てくださった皆さんありがとうございました。

■ステージ 河本 信

今年の高専祭ステージ企画は、多くの協力により成功することができました。

特にステージの背景のちぎり絵は、学生会全員の手で作られた、最高傑作になったと思います。

そして、今年の高専祭ステージ企画の1つ「ヌルヌル相撲」は、反対意見も多くて、実現させるのが難しかったのですが、学生主事室の先生方の協力もあり、無事に実現させることができました。

書きたいことは山ほどあるんですが、文字数に限りがあるのでこの辺で…。

伝えることが出来ないのは悔しいので、来年の高専祭に来て、実際に見ていただけると嬉しいです。以上！



■会場 青木 勇介

僕は去年に引き続き、会場の仕事をやらさせていただきました。今年は1日目に高専内の駐車場を使用するという去年とは違う形だったので大変でしたが、会場メンバーと交通問題対策委員のおかげでスムーズに駐車場整備をすることができました。会場は当日まで、高専祭に貢献することが出来ていなかったもので、無事に終えることが出来て、とても嬉しく思います。

■美化 笠井 浩貴

高専祭までの活動はゴミステーションの看板の作成や「高専祭まであと〇〇日」の看板を作り直したりと色々な準備をしました。当日はゴミの分別・回収、焼おにぎりの販売を頑張りました。仕

事が重なり忙しいときに美化のみんなや他の部署の人が手伝ってくれたのでとても助かりました。

今回の高専祭で人との協力の大切さを改めて実感することが出来ました。

みんなお疲れ様でした！そしてありがとう！！

■ロボコン 有金 聡

「周南ロボコン」には33組87人が出場し、大成功のうちに幕を閉じました。持参したロボットをリモコンで操作し、ピンポン球を容器に入れ、その個数を競うという戦いのもと、子どもの豊かな発想力に脱帽し、大人の技術力に感動した1日でした。競技の円滑な運営に関わって下さった皆様、ありがとうございました。

■案内 倉田 寛子

案内係では門の製作を行いました。今年は、ベニヤ板を運んで切ったり、脚立で5m上にあがったりなど、例年になく力仕事をたくさんしました。

ひとつのものを作るために部署のメンバーはもちろん他の部署の人や先生方との協力で完成でき、大きな達成感を感じました。

みんなありがとう。お疲れ様でした！

■ファッションショー 瀬田 彩乃

今年は「present from you」というテーマのもと、学生会役員とメンバー一丸となってファッションショーを作りました。たくさんの壁がありましたが、多くの人に支えられて励まされて心強かったです。

当日はステージも客席も盛り上がり、最高のショーになりました！最高の思い出になりました。ありがとうございました！

■物品・バザー 原 舞香

私は部署長をやらせてもらえて本当に良かったです。責任感って大事だなと痛感しました。

初めて体育館でバザーを行うことになって不安だったけど、当日みんながバザーを忙しそうに行っているのを見て安心しました。

あんなにも楽しく充実した高専祭は初めてでした！みんなありがとうございました(^ ^)！

■広報 石村 昇平

今年度の学生会メンバーで高専祭を創り上げるということに、最初は不安が多かったですが、終わってみると独創性のある高専祭になっていたと思います。

学生会が有志の集まりとはいえ、50人もの人間がまとまることの難しさ、リーダーの大切さ、中間管理職の責任の重大さなど、学んだことは多く、今後の人生に役立つ経験になりました。



■スポンサー 大平 百合恵

高専祭が終わって2ヶ月が経とうとしています。あんなに楽しい夢のような時間を過ごせたのはたくさんの人の支援があってからこそだと思います。後期はじめの2週間はスポンサーのことで頭がいっぱいで本当にパンクしそうでした(笑)でも、こうして大切な思い出に刻み込まれたのは苦勞があってからこそだと思います。みんなありがとう！！

■ライブ 松田 光史

今年度の高専祭は天候の影響で屋内での実施となりましたが、そのおかげなのかライブやステージ企画を見てくださった方々が例年より多かったように思えました。高専祭当日まで本当に大変でしたが、学生会の役員として企画から打ち合わせ、準備、当日の仕事に携わることが出来て本当に良かったです。良い思い出となりました。

学寮リフォーム紹介

寮務主事 田村 隆弘



2008年に耐震補強（中央）された高城寮。各室にはエアコンが、手前には女子寮と男子寮の玄関を結ぶ渡り廊下が設置されました。

高城寮は、本校がここ高城の丘に建設された昭和50年（1975）に、開寮しました。従って、35年の風雪に耐えたこととなります。学寮のリフォームについては、徳山高専の開校20周年記念誌（平成6年）で当時の原田主事（私は主事補でした）が、コンクリート壁のひび割れ等、老朽化を指摘されています。（コンクリート構造を研究している私としては、築20年で老朽化対策を考えなくてはいけないと言うのは、少し問題があると思うところですが。）その後、徳山高専30周年記念誌（平成16年）に、室長主事が、寮の改修計画を熱心に議論し、具体的な改修計画を提示したことを記録しておられます。しかし、この段階では、「学生寮の大規模改修実現への道程は遠い。」と、締め括っておられるように、その実現については、全く見通しが付いていなかったようです。

しかしながら、当時の段階で具体的な改修計画を完成させていたことが功を奏し、予算要求を継続的に行い、そして計画的に改修の準備を進めるということで、（まず始めに電力量を確保するための工事を行う等）できることから準備して来た結果、一昨年は、大規模な耐震補強や食堂、玄関や階段のリフ

ォームが行われ、昨年は遂にエアコンが設置されるまでに至りました。地球温暖化の影響でとても暑い夏になっていますが、学寮は、快適です。昨年は、さらに各階に洗濯乾燥機が設置され、東側の洗面とトイレもリフォームされました。

今年は、屋上の安全確保と漏水対策も進められました。今後は、少し時間が掛かるかもしれませんが、居室の整備を計画しています。ここ数年、寮生の成績は、通学生を上回っていますが、益々、勉強の出来る環境を整えて行きたいと思います。



▲リフォームされた食堂（2008年）



▲リフォームされた玄関（2008年）



▲リフォームされた中央廊下（2008年）



▲各室にエアコン設置（2009年）



▲リフォームされた男子トイレ（2009年）

▲もちろんシャワートイレ設置（2009年）



▲各階に設置された洗濯室と洗面、トイレのリフォーム（2009年）

▲楽しそうに洗濯をする寮生（2009年）

朝の洗面風景▶（2009年）



▲漏水対策ならびに防護策が施された屋上（2010年）



▲屋上物干場への通路も屋根設置（2010年）

・ 後輩諸君へ ・

Are you an “I” or a “T” ?

Wilson Chua Tiu

H3(1991)年3月情報電子工学科卒業
(Currently employed at IBM-Philippines)

Warm greetings to my fellow Tokuyama College of Technology graduates as well active students. I am Wilson Tiu from the Philippines. I graduated close to 10 years ago in 1991, after which I pursued to an undergraduate and then graduate course on Knowledge-based on Information Engineering at Toyohashi University of Technology. I am happily married with a six year old son and a three year old daughter.



At a restaurant in Tokuyama(Sept. 2010)

I am currently employed at IBM in the Philippines, and I am involved in a global project with the mission of developing an accounting data warehouse for international mobility/relocation taxes. To be effective in this role, I need to employ my understanding of international mobility, cross border taxation, balance sheet accounting, and of course database knowledge and programming skills, plus coordination and facilitation skills in a global environment.



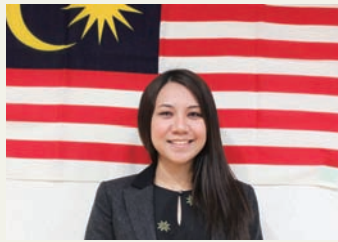
With my family

I didn't mean to bore everybody with this long list, but I want to highlight that, to succeed in today's global and competitive environment, it is important to be an expert in one area (analogous to the letter “I”), but it is equally important to also develop a fairly good knowledge in other areas as you grow your career (analogous to the letter “T”, expert in one area, but has knowledge across other areas). Remember the only person who can put a limit to what you can be is yourself and whatever you learn will not go to waste. So are you an “I” or a “T” ? Cheers.

・卒業する留学生①・

ありがとう徳山

機械電気工学科
ハサナ
(マレーシア)



私はなぜ日本を選んで留学したのだろう。母国の大学に進学したら、もっと便利だったと思います。家族も傍にいるし、友達もいっぱいいるし、食べ物おいしいし、物価は日本より安いし、言葉も問題がないし、などなど。それは、私の辛い時の考えですが、実は、留学生のみんなは自分の国より日本の技術が素晴らしいから、それを学んで母国に戻って、自らの国を豊かにしたいと考えます。

しかし、知識意外に身につけた力も大切です。留学は、簡単なものではありません。遠いところから

来て、重い責任を持っています。前もって準備をしないとイケません。心の準備、勉強の準備などが必要です。そうしないと、途中でいろいろな問題が出てきてしまいます。もちろん、だめになってから残念と思ってもしょうがないのです。

人間は、いつも不安なことがいっぱいあります。私もそうですが、今の私は、徳山高専に編入して良かったと思っています。いろいろな経験ができて感謝しています。3年生の時の私を思い出すと、悲しさ、面白さ、寂しさなどこみあげてきます。心の奥に「本当に帰国したいなあ。」という思いが毎日毎日溢れていましたが、日本が大好きです。

最後になりましたが、高専の生活は大変でしたが、世界は広いから徳山高専の勉強に限らず、いろいろなところで貴重な経験をしながら社会に出て、有用な人になりたいと思います。高専で3年間お世話になり、本当にありがとうございました。

ハサナのチューターとして

チューター
機械電気工学科
森岡 佑太



頭の中からすっかり抜け落ちていた締切日を思い出し、少々焦りながらキーボードを叩いている。

パソコン、携帯電話などの文明の利器に頼る生活を続けていると、漢字を忘れてしまいがちだ。読めても書けない。そういえば、ハサナに漢字を聞かれて、辞書で確認することがあった…。情けないことこの上なし。

前置きはさておき、今回が最後の原稿になるだろうから、ハサナについて少し。

彼女はマレーシアの出身である。意思の強そうな眼差しが印象的で、綺麗な人だなというのが第一印象だった。席が隣あわせという理由から、チューターに任命され躊躇していたが、ハサナはニコニコして「お願いします。」と言ってくれた。

数多の出来事があったが、今でもはっきり憶えていることがある。それは、盆栽が見たいという彼女の希望から、祖父母の家へ招待したことだ。盆栽とはまた渋いなと思ったが、適当な盆栽を見せると「こんなものか」と思われそうだったので、手入れが行

き届いた祖父の盆栽を見てもらうことにしたのだ。

ここでハプニング。諸事情あって、私は岩国の実家から、彼女は寮から、それぞれ柳井の祖父母の家に向かったのだが、待ち合わせの時間になっても彼女は駅に来ない。電話してみると、バスに乗り遅れたとのことだった。

予定より一時間ほど遅れて、祖父母の家に着き、お目当ての盆栽を見るために庭に出た。そこには大小様々な盆栽が並んでいたが、ポピュラーな松の盆栽を見て、「Oh、これが盆栽ですか!!」とはしゃいで写真を撮っていた。日本の文化に親しんでもらえたようで、嬉しかった。

彼女は手作りのお土産を持参してくれていた。名前は失念してしまったが、マレーシアでは一般的なお菓子ということだった。味が良く、つつい食べ過ぎてしまったが、それはマレーシア人の味覚と、日本人の味覚が似ているということなのだろう。と思っていたら、祖母が作ってくれた辛口のカレーに、持参した香辛料をふりかけていた。やはり、少しは異なるようだ。

徳山高専には、様々な国から多くの人が学びに来ている。国外に出たことのない私にとって、これは尊敬に値することだ。私も積極的に海外渡航に挑戦し、広い視野を持った人間になりたい。

漢字をどれだけ忘れてしまっても、共に学んだ日々のことは忘れない。いつの日か、世界の片隅で再会できることを願っている。

・卒業する留学生②・

寮の思い出

情報電子工学科
プージェー
(モンゴル)



徳山高専に編入したのは、最近のように思えますが、すっかり3年も経っていました。現在の時点で考えれば、今までの人生の中で一番忙しくて色々な経験ができた3年間だと思います。

3年前のことを思い出すと、東京駅から新幹線で4時間半ぐらい乗って徳山駅に降りた時、江口先生と先輩が迎えに来ていました。来たこともない新しい所、会ったこともない見知らぬ人々の中でとても緊張していましたが、これからの全ての新しい出来事を楽しみにしていました。

寮生活や授業や新しいクラスメイトに早く慣れ、ついて行くのが一番最初の目的でした。クラスメイ

トと親切な先生たちのおかげで学校生活にも慣れてきて順調でしたが、一番慣れにくかったのは寮の規則と門限でした。

毎朝、学校へ行く前に掃除をすることにとってもびっくりして、本当にやる気が全然出ませんでした。母国モンゴルでは寮というのは私の知る限りアパートみたいなものだったので、日本の高専寮の違いに少し戸惑っていました。

しかし、夏ごろになると寮の生活にも慣れるようになり、寮生活には難しい面があれば、良い面もあることに気がきました。

今の私から見ると、寮は楽しくて、規則正しい学生生活を送れる快適な環境と思っています。

そして、徳山高専の先生達やクラスメイトや他の色々な人々が支えてくれたことで、大切な高専生活を過ごすことができたと思います。

人は様々な人と出会い、あらゆる経験をするたびに成長するので、徳山高専では勉強はもちろん、その上に、人としてとても成長したと思っています。

ありがとう

チューター
情報電子工学科
松永 明子



高専の3年生の春、プージェーが私たちのクラスに編入してきました。担任の先生に留学生のお世話をやってみないかと誘われ、引き受けたのがきっかけで私は彼女のチューターになりました。初めはどう接していいかわからず、戸惑うこともたくさんありましたが、彼女の優しさに助けられながら無事一緒に3年間を過ごすことができました。

初めて出会った時のプージェーはとても大人で静かな人という印象でした。日本語がとても上手で、綺麗な言葉遣いをしているなあと関心したのを覚えています。一緒に寮生活をし、モンゴルのことや家族のことをお互いに話すにつれすこしずつ打ち解け

ることができ、とても嬉しく感じました。

プージェーはとても可愛く、優しく、賢い人です。私が体調を崩したときは暖かい飲み物を持ってきてくれたり、いつも助けられてばかりです。萩合宿研修、研修旅行、テスト週間中に夜遅くまで話したり、この3年間で、プージェーとの楽しい思い出がたくさんできました。

こんな素敵な留学生のチューターになれて本当によかったと思います。勉強を教えることはほとんどできませんでしたが、一緒にテスト勉強や課題をしたり少しはチューターらしいことができたかなと思います。

チューターは私にとってとても良い経験になりましたが、それ以上にプージェーと仲良くなれたことを本当に嬉しく思います。卒業してもずっと友達でいたいです。これからも夢に向かって頑張っ

てね。いつかプージェーのところへ遊びに行くから待ってね。

この3年間本当にありがとう。

・ 今年の思い出 ・

★留学生のふるさと展 (H22.7.10)

今年で7回目を迎えるこのイベントは、徳山高専で学ぶ4カ国6人の留学生の母国を紹介することで周南地域の方々に留学生と各国のことをより深く理解していただき、国際交流を深めることを目的に開催しています。マレーシア、モンゴル、セネガル、カンボジアの紹介を、留学生とサテライト委員の学生、教職員が協力し工夫を凝らしたプレゼンテーションやパネル展示で行いました。来場された方々からの質問に答えたり、母国の歌を披露したりと、楽しい交流のひとつを持つことができました。



★留学生見学旅行 (H23.1.15-16)

毎年恒例の留学生見学旅行に行ってきました。今年は、出雲大社、松江城、足立美術館、そして、一大ブームとなっている水木しげるロードを巡ってきました。近年にない寒波による大雪の中、寒さに負けず、楽しんで来ました。



★留学生のつどい (H23.1.29)

屋外では、寒風吹き荒れる中、留学生のつどいが本校学生食堂で開催されました。

留学生が、日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝を表すと共に交流を図る本会も今年で17回目となりました。3月でお別れとなる2名の留学生の送別会も兼ねており、スライドショーやクイズなど趣向を凝らした演出で笑顔の絶えない温かい会となりました。



機械電気工学科

就職・進学状況 覚悟はできたか？



5年担任 機械電気工学科
准教授 張間 貴史

平成23年1月11日現在、機械電気工学科5年生の就職希望27名のうち、内定を獲得しているのは26名です。進学については、希望者13名のうち、5名が大学に、7名が本校専攻科に決定しています。本稿では、ここに至るまでの経緯を時系列で振り返り、就職・進学において大事なことを考えてみます。

リーマン・ショックから1年余り経過した平成21年10月、本校に郵送される求人票や人事担当者の来校の少なさから、これから始まる就職戦線の厳しさを感じ始めました。この頃には、ほとんどの学生が就職か進学かを決定しており、具体的な企業名や大学名を挙げる学生もいました。志望大学が決まっている学生は、年末までには大学編入学の過去問題を入手して準備に入っています。年が明けると、志望企業が決まっている学生の中には、卒業生にコンタクトをとったり、春休み中の企業訪問の希望を担任に申し出たりする者もいました。つまり、意思決定の早い学生は、4年次の後期後半を具体的な就職活動・進学活動に充てていたこととなります。

春休みに入ってから、本校卒業生を招いて企業説明会（全9社）を開催しました。これは、本学科で毎年開催しているもので、学生にとっては業種や職種を深く理解するための良い機会となり、我々教員にとっても卒業生の“生の声”を聞くことができる数少ない場の一つとなっています。

春休みには、就職希望者はエントリーシートの作成や企業訪問、企業研究を行い、進学希望者は大学の見学や受験勉強をしていました。クラブ活動も活発に行われる時期ですので、累積不可単位を多く抱える学生にとって、3月末は超多忙です。

企業への応募書類の発送は、そのほとんどを4月の第一週に行いました。就職希望27名のうち23名が志望した企業が、4月中の採用選考を計画してい

たためです。6月末には約8割の学生が内々定を貰った一方で、第二希望・第三希望に回った学生の就職活動は、夏休み以降も続きました。ちなみに、第一希望に合格した学生は16名でした。

これと並行して、大学編入学試験と専攻科の試験が行われました。大学への編入学は就職活動の厳しさと定員の厳正化によるものか、昨年度に比べて厳しくなったように思えます。特に、9月以降に多くあった二次募集が激減しました。専攻科の試験も甘くはありませんが、学生の周到な準備により、概ね希望通りの結果となりました。

それでは、就職・進学で大事なことは一体何でしょうか。担任から示されたスケジュール通りに意思決定し、キャリア教育支援室のプログラムに参加したり、教員や先輩のアドバイスに従ったり、過去問を入手して対策するだけで表面上は済んでしまいます。それで結果がついてくる場合もありますが、就職の第一希望の合格率16/27という数字が、そうでないことも示しています。重要なのは、就職や進学を自分のキャリアにとって大事な節目であることを認識しているか、という意識の問題だと私は考えます。つまり、自分の人生の方向を決定するこの重いテーマと相対する覚悟があるのか、ということです。この覚悟があって初めて、自分がしてきたことを冷静に振り返り、自分の弱点と向き合う勇気が湧き、妄想ではない自分の明るい未来を思い描き、自分のすべての意思決定に責任が持て、そしてそれらの理由が明確に述べられるようになるのです。

そこから後の細かいテクニックは、巷に溢れる就活本や先輩からのアドバイスに譲ります。

来年度以降も、本校の卒業生が明るい希望を持って社会で活躍する人材になることを祈念しています。

就職 IHIエアロスペース・エンジニアリング、宇部マテリアルズ、NOK、関西電力、カンセツ、きんでん、呉興業、ジーエス・ユアサコーポレーション、西部石油、武田薬品工業、田辺三菱製薬工場、中国電力（2人）、東海旅客鉄道、東京電力、東芝社会システム社、TOTO、東洋鋼鈑、トクヤマ、日本ゼオン（2人）、日本モレックス、日立国際電気サービス、日立製作所、三菱重工業、周南市

進学 徳山高専専攻科（7人）、岡山大学、千葉大学、東北大学、長岡技術科学大学、山口大学

就職・進学試験体験記

● 体験記①

努力なくして道はなし 機械電気工学科5年 中村 友也



「就職活動…、これは本人がどう取り組むかで歓喜と悲哀、勝者と敗者にくっきり二極分化されてしまうという、受験同様人生で必ず通らなければならない関門である。この関門を乗り越えるか否かで、勝者と敗者が決まってくる。」

私は就職活動を振り返ると、就職活動に対して、上記のような感情を抱くようになりました。私の就職活動は一言でいうと艱難辛苦、周りの仲間が次々と採用を決めていく中、企業からは不採用通知が相次ぎ、4年の3年半ばから就職活動を始めたものの、5年の11月頃まで就職が決まらず、辛酸を舐める形になりました。しかし同月、やっとの思いで周南市役所から内定をもらうことができました。

なぜ内定をもらえるようになったのか、自分なりに確証があります。それは「やる気と努力」に尽きます。やる気があるから努力をする、努力をしたから、その分「結果」として返ってきたのだと思います。これから就職活動を始める方に言いたいのは、

就職活動をする上で一番大切なのは、履歴書対策でも筆記試験対策でも面接対策でもなくメンタル、やる気をもって努力するという強いメンタリティだということです。一度や二度の挫折に負けない強いメンタリティがあれば、おのずと結果が付いてくると思います。その上でアドバイスをするとすれば、まず、就職活動は早めに取り組むべし。そして履歴書は、自らの高専生活を振り返り、自信を持ってポジティブに書いていくことが大事です。筆記試験は積み重ねです！面接試験は原稿の丸暗記は厳禁で、いかに自分の考えをはっきりと流暢に伝えられるかがカギです。これらはやる気があれば、自然と出来ることです。とにかく自分が「ここだ！」と思う企業を決めて、その目標に対して突っ走ることが大事です！

私は就職活動を通して、人間としてまた一つ二つ成長できたと思っています。これから就職活動を経験する人たちも就職活動を通して成長してほしいと強く願っています。

周南市役所

● 体験記②

東北進記 機械電気工学科5年 榎本裕次郎



私は入学してから3年の夏まで将来のことをたまに考えはするものの、就職と進学のどちらにも決断することができませんでした。就職している自分も、大学生になる自分も想像できなかったからです。そのため、1年のころから両方を自由に

選べるように勉強を頑張ることにしました。また、いずれ面接をするときが訪れるので面接官の印象に残るために自分だけの長所を持っていないといけないと考え、私の場合は周りより多くの国家資格を取得するという目標を定めました。

4年になると、今就職してしまうと関わる人々が工業系に偏ってしまうのではないかと感じました。私は医者や弁護士といった様々な分野の人たちや様々な地域の人々と交流し、視野を広く持つことが技術者としても自分のためになると考えています。交流の輪を広げることをきっかけに大学編入する努力を始めました。進学先を決める際は自分の実力を客観的に見ることに注意し、過信や謙遜は捨て

ました。工学系は多くの分野があるので誰でも興味がある研究が必ず見つかります。そのため進みたい分野もすぐ決まり、あとは勉強することがメインになってきました。数学、物理は過去問を見て傾向をつかみ、それを重点的にやり、英語は日々の積み重ねが大切なので毎日英文読解や単語暗記を怠りませんでした。5年になると更に勉強だけに専念するために入寮させていただきました。また、生活を朝型にするために22時寝の3時起きにして体調管理に気をつけながら計画をたてて勉強しました。

そして、家族や友人、教授等の支えもあり無事に合格することができました。

全てが終わって感じたことは、“若いうちに一度は死に物狂いになって一つの目標に向かって打ち込むべき”ということです。勉強でもスポーツでもなんでもいいです。その経験をしたからこそ、これからどんな障害が立ちふさがっても、乗り越える自信が私にはあります。

東北大学

情報電子工学科

就職・進学状況 超氷河期の現実



5年担任 情報電子工学科
教授 奥本 幸

◆4年から始まる就職準備

図1に示すように、2011年度入社の求人数は減りました。しかし、4年夏休みのインターンシップや2月に実施したOB説明会などを活用して、早くから自分軸を確立していた人は、5月連休明けには内々定を得ました。自分の希望業種や職種が絞れない学生、試験への準備不足の人は、8月上旬まで就職活動が長引きました。

今年の就職活動の特徴は4つあります。

1. Webエントリー企業の増加

エントリーシートを入力を始め、説明会や試験の予約をWebからします。エントリー数1万人、採用総数70名(内高専卒4名)という企業もあります。

2. 推薦状の扱いの違い

採用試験には学校推薦と自由応募がありますが、学校推薦の扱いが企業で異なってきました。

- ・学校推薦と自由応募とで採用方法に違いがない会社：内々定が出るまでの時間が長い
- ・学校推薦を重視する会社：これまでの実績から高専の推薦は信用を得ており、内々定までの時間が短い
- ・自由応募のみの会社：大学生と同じ採用試験を受けるため、明確な目的意識が求められる

3. 説明会への出席が必須の企業

ミスマッチを防ぐのと、入社志望の学生を絞りたいという企業の目論みがあります。交通費は自前ですが、会社を理解し、質問ができるよい機会です。活用しましょう。

4. “当社の採用基準を満たす人を採用します”

「どんな学生を採用するのか?」、ある企業の人事担当者の答えです。

- ・自分が学んだことに自信を持っている人
- ・幼さが出ている人は採用しない

- ・自分がどう考えて行動してきたか、自発的に何に取り組んできたか、何に興味をもってやってきたか、その結果どういことが自分にプラスになったかが言えること
- ・さらに、入社後、それらが相手(同僚や会社)にとってどうプラスになるかまで言える事を求める

あなたはこれまでのどんな経験(行動)から、自分の何を語りますか。1年生の皆さん、高専入学がゴールではありません。将来的にどう生きていくのか、これから自分の解を自分で見つけなければいけません。

◆実力が問われる進学

進学は、専攻科4名、編入7名です。第一希望の大学へ進学できた学生は半分しかいません。その理由の一つは、クラス内の順位だけを見て勉強してきたからです。大学院への進学が比較的容易になっている現在、リベンジは果たせませす。これを機会に奮起を願っています。

自分の実力が試せる各種コンテスト(プロコンなど)や資格試験、TOEICなどにどんどん挑戦しましょう。

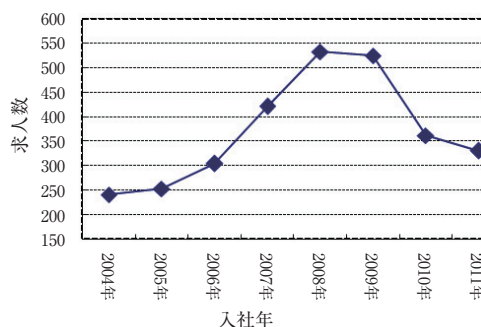


図1 情報電子工学科への求人数

就職 アイシン・コムクルーズ、出光興産、宇部興産、宇部情報システム、NTTコムウェア西日本、NTTデータ、大阪シーリング印刷、オムロンフィールドエンジニアリング、関西電力、KDDIテクニカルエンジニアリングサービス、KOUZIRO、コニカミノルタビジネスソリューションズ、ダイキン工業、中国電力、東ソー・ハイテック、東洋ヒューム管、日電工業、日本ゼオン徳山工場、日立交通テクノロジー、日立国際電気、富士通、富士通関西中部ネットテック、富士通九州システムズ、フリーピット、ミヨシ油脂、森板金製作所、安川コントロール

進学 徳山高専専攻科(4人)、宇都宮大学、筑波大学、東北大学、豊橋技術科学大学、山形大学、山口大学

就職・進学試験体験記

● 体験記③

経験を積む 情報電子工学科5年 三坂 奨



「学業以外の活動も積極的に取り組む」ということについて、実体験から考察します。

高専に入学したことすら気まぐれの私は、進路についても優柔不断でいました。そんな中、「インターンシップは行ったほうが

良からう」という漠然とした意識から選んだ会社に、まさか就職することになるうとは。人生わからないものです。

実はこれ、単なる運の問題ではないのです。私は課外活動として全国高専プロコンに参加しました。インターンシップ中、人事の方にそれを伝え、プロコン会場まで見に来る話に発展しました。プロコンに参加していることをアピールの材料にできました。このことが就職試験において、有利に働かなかったとは言えないはずです。

チャンスを活かすも殺すも自分自身の経験にかかっていると私は考えています。面接や履歴書などの能動的なチャンスだけでなく、私のような受

動的なチャンスにおいても、書けるネタ・話せるネタがあるのは強みです。経験とは、部活や課外活動や学生会活動が最たる例でしょう。面接では、苦労した経験とその解決手段、また、何を学んだかを重点的に聞かれます。実体験を話せば良いだけなので簡単ですね。

社会はコミュニケーション力のある人材を求めていると言われます。私は、コミュニケーション力と話術は同義でないと思います。論理的な裏付けと結論に至る経緯が重要なのです。プロコンや部活でプレゼンをする機会が多数用意されていた為、私の実力は養われたのでしょうか。このように、経験は後になって必ず効果を発揮します。

私の学業成績は平凡でしたが、課外活動としてのプロコンには絶対の自信を持っていました。そのような自分独自のアピールポイント（経験）を用意できるよう、学業以外の活動も積極的に取り組んでください。

NTTコムウェア西日本株式会社

● 体験記④

編入と勉強 情報電子工学科5年 上田 俊哉



私が大学編入を目指すことに決意を固めたのは4年次の夏でした。今になって思えばスタートラインに立つことすら遅かった私なのですが、受験勉強に本腰を入れて取り組み始めたのは更に後になってのことでした。これが

後々響いて、時間が無いことをひどく嘆いた覚えがあります。

そこで私が一番に思うことは、とにかく余裕を持って勉強することが大事だということです。大学にもよりますが、編入試験は出題範囲がとても広く定められていることもあり、準備が遅いと範囲のすべてを十分に網羅しきれない可能性があります。私は先生方から参考書をお借りしたり、わからない問題を教えていただいたり、時には友人と問題を出し合ったりといった、周囲の多大なるサポートのおかげで、何とか受験までに納得いくだけの勉強をすることができましたが、余裕が無かったことは確かです。

また、計画を立てるということも受験対策をする上で大切なことだと思いました。推薦入試の場合は特にそうですが、学校の定期試験や部活動をなおざりにせずに編入の勉強をしなくてははいけません。そうするとただ漫然と勉強をしている、あつという間に時間が過ぎてしまいます。私は計画表を立てて、今日はこの参考書のこのページをやるという風に取り決めておくことで、とても効率よく勉強できたと思っています。

どこに行くかではなく、何をするか——これは私が高校受験を控えた中学生の頃、先生に言われた言葉です。編入をしようかどうか迷っている人は、まず自分が何をしたいのかを考えてみてください。しっかりした目的意識を自分の中に持つことで、それが受験への取っ掛かりとなり、勉強のモチベーションに繋がると思います。

そして時には羽を伸ばして貴重な高専生活を楽しむことも忘れないようにしましょう。

豊橋技術科学大学

土木建築工学科

就職・進学状況

土木建築工学科の就職・進学



5年担任 土木建築工学科
教授 工藤 洋三

今年度の土木建築工学科5年生は47人でした。このうち26人が進学ですから、進学率は55%になります。昨年より率は減ったとはいえ、進学率が50%を超えるという状況が最近はずっと続いています。進学の内訳は、徳山高専専攻科に進学する学生が21人、国立大学へ進学する学生が5人です。

就職希望者20人のうち、すでに18人の進路が確定しています。これまでは、土木建築工学科の進路として公務員希望者が多いというのが一つの特徴でしたが、今年は2人になりました。10人以上が国家あるいは地方の公務員として就職していた時代とは隔世の感があります。公務員の採用枠が減ったこと、高専・大学から受験する学生より現役でない学生の採用率が増えていること、最終的に進路が決定するのが遅く民間に希望を変更する人が増えていること、などさまざまな要因が挙げられています。一方で、利害と関係なく国民や県民、市民に奉仕できる仕事であること、女性が働きやすい職場であること、雇用が安定していることなど、公務員はやりがいのある仕事です。公務員を希望する人は、早めに目標を決めて公務員試験の問題に取り組むことが必要でしょう。

民間企業への就職が決まった人が16人です。16人の地域別の内訳では県内が4人、残りの12人は県外です。土木建築工学科の卒業生の就職先の定番だったゼネコンが、昨年度はついに0になりましたが、今年度は2人の就職が決まりました。日本道路公団の分割民営化で誕生した西日本高速道路（NEXCO西日本）に2人が合格しました。建設業が本業では

ありませんが、会社の中に建設部門がある電力会社やJRの人気が高いのは例年どおりでした。電力会社に2人、JRに2人が就職します。設備関連会社には2人、道路会社に1人が就職することになりました。長引く不況と公共事業の見直しの中で新規採用を手控える企業が多い状態が続いていましたが、どんな会社でも新卒採用による新陳代謝が必要なことはまちがいなく、来年度から新卒採用を増やす企業が出てきたことは明るい話題です。

県内の就職のうち、2人は建築設計事務所です。徳山高専土木建築工学科の建築系を卒業することで、卒業後すぐに2級建築士の受験資格が得られますが、早い時期に2級の資格をとり、実績を積んで1級建築士の資格に挑戦してほしいと思います。

最近の就職試験の特徴として、従来の個別の面接試験だけでなく、グループ面接やグループディスカッションを採用する会社が増えています。グループディスカッションでは、他の人間との関わり方、すなわち協調性やリーダーシップ、他人の意見に耳を傾けることができる能力、いわば対人能力を見るのだと思います。試験前には学科でも練習をしますが、こうした能力は一朝一夕にできあがるものではありません。常日頃から新聞や書籍を通じて社会への関心を高め、良好な対人関係を築くための努力が必要なのだと思います。

どのような厳しい状況下であっても求人が途絶えることはありません。これから挑戦する人は、しっかりと自分の進路を見つめ、基礎的な学力を身に付けて就職試験に臨んでほしいと願っています。

就職 鹿島クレスウエスト、産機設計、三建設備工業、シマダ、中国電力、東海旅客鉄道、東京電力、東ソー、西日本高速道路（2人）、西日本旅客鉄道、美建築設計事務所、前田道路、ライト工業、若築建設、岩国市、周南市

進学 徳山高専専攻科（21人）、京都工芸繊維大学、熊本大学（2人）、徳島大学、長岡技術科学大学

就職・進学試験体験記

● 体験記⑤

多くの人に支えられて 土木建築工学科5年 中澤 晃治



今年度、民間企業への就職活動を行い、内定を頂くことができました。

入学当初から公務員を志望していましたが、公務員の倍率増加や採用数削減といった状況だったため、自分の興味がある民間企業を一般応募で公務員試験と同時に受けることにしました。そのため民間企業への就職活動の期間は、1社のみで5月からの1ヵ月間と非常に短かったのですが、様々な経験をする事ができたように思います。企業説明会や面接を通して、企業や人事の方といった社会人と今までにないほど関わりを持ち、学生と社会人の違いなどを感じることが出来ました。また、志望動機や自己PRでは、自分自身について深く考える機会となり、非常に良い経験になったと思います。普段の学生生活では体験することのできないことが出来る就職活動は、自分が成長できる機会になったと思います。しかし、このように言えるのも就職活動を良い

意味で終えることが出来たからであり、就職活動中は不安で頭がいっぱいでほかのことを考える余裕はなかったように思います。専攻科志望も民間企業志望も次々と決まっていく中で非常に焦りを感じ、履歴書や面接、公務員試験といった就職に関して準備不足であったことに不安を感じていました。そのなかで内定を頂くために多くの先生に協力していただきました。面接の練習、アドバイスをはじめ、民間企業への就職を考えていなかったため、エントリーシートや履歴書の書き方さえ分からなかった自分に対して、丁寧に添削をしてくださったことは今でも覚えています。

今は、社会人としてとやっていけるか不安ですが、人事の方が選んでくれたと開き直って頑張っていきたいと思います。

西日本高速道路

● 体験記⑥

私の就職活動 土木建築工学科5年 深山 実香



私の就職活動は4年生から始まりました。入学当初から公務員になりたいと考えていたので、進路対策の時間も公務員コースを選択し、勉強を始めました。その頃はまだ、就職は先のことと真剣には考えていませんでしたが、夏休みを利用し、市役所で経験したインターンシップは、私にとって就職について考える良いきっかけとなりました。それまでは公務員になりたいと思いつつも、仕事内容などもほとんど知らず、大して興味も持っていないという状態でした。しかし、インターンシップを通して職場の雰囲気や、職員の方の話を聞いていくうちに、陰ながら地域の人々の生活を支える仕事に魅力を感じました。そして、この仕事に就くためには勉強をし、努力をすることが必要だということに気がきました。そこから、私は就職に関する知識を増やそうと学校で行われる就職セミナーや、企業説明会など様々なものに参加しました。セミナーでは履歴書

の書き方、電話対応など丁寧に教えていただき、就職に役立ちました。また、企業説明会ではいくつかの民間企業の説明を聞きましたが、やはり私は公務員になりたいと再確認することができ、その後の勉強へのやる気が出ました。その中で、5年生の春には専攻科や民間企業に就職する周りの友人はどんどん進路が決まっていきました。公務員は採用が決まるまで遅いと理解していたつもりでしたが、実際その状況になると、日に日に焦りが大きくなっていきました。民間企業も受験しようかと悩み、両親と何度も相談しました。振り返ると、就職活動の中でこの時期が一番つらかったです。しかし、同じ公務員志望の友人や、話を聞いてくれ、勉強を教えてくれる友人、進路相談を受けてくださった先生や両親など多くの人に支えられ、頑張ることができました。4月から社会人となることに不安もありますが、これまでの就職活動を通して得た自信や高専で学んできた知識を活かして働いていきたいです。

周南市

機械制御工学専攻

就職・進学状況 己を知ることが大事！



機械制御工学専攻幹事
機械電気工学科
講師 石田 浩一

本年度は今までと違い機械制御工学専攻の修了生が10名という多さでした。進路は就職7名、進学3名となっています。今年就職先に関しては学生が増えたとはいえ求人も多く、選択の幅が狭まった感じはありませんでした。しかしながら、未だ採用に関しては厳しい状況であったように思います。特に今年度は、面接で厳しい状況になった学生もいて、人物を厳しく審査していることがよくわかりました。今後はさらにこの傾向が続くと考えられます。企業訪問をしても、まず人物を見極めるとの話もできますし、会社では他とコミュニケーションが取れるかが大事であるとの話は必ず出てきます。また、会社に行って何をやるのかを明確に自分なりに考えて

いるかも重要です。その考えなしに面接に行ったために意欲がないと思われたこともあったようです。近年、専攻科修了の学生の評価が上がり、専攻科生を採用したいとの企業も増えてきてはいます。しかし、他高専の専攻科生と大学生との競争になることは変わりありません。就職を考える学生は、何のために専攻科を修了し、何のために会社に行くのかをよく考えておきましょう。行きたい会社を選ばれるためには常に努力を怠ってはならない事を忘れないでください。これから、求人がこれまで以上に多くなる状況はありません。多くの企業を受けられる訳ではないことも認識しておいて下さい。

一方、進学に関しては、現状では編入先も多く問題なく大学院進学を決めています。ただし、この先定員が少なくなることが予想されますので、進学を考えている学生は、学力の向上を忘れないようにしておいて下さい。また、大学を卒業すると当然、就職となりますので、そのことも考えて進学先を決めてください。

就職 川崎重工業、関西電力、サンテック、日新製鋼、日立製作所、日立交通テクノロジー、三菱重工業

進学 九州大学大学院（2人）、岡山大学大学院

就職・進学試験体験記

● 体験記⑦

進学は情報戦

機械制御工学専攻2年 廣本 鉄史



私は、九州大学大学院総合理工学府先端エネルギー理工学専攻に進学が決定しました。これまでの大学ではこれまで高専で学んできたものと違う分野を専攻するので少しだけ不安を感じていますが、新しい生活をとても楽しみにしています。

さて、これから進学、就職活動を始められる皆様に私の進学活動についてお話ししたいと思います。

まずは進学先の大学及び、専攻の決定です。本格的に進学先を探し始めたのは専攻科1年生の2月下旬からでした。私の場合、以前より九州大学に進学したいと考えておりましたので、大学の決定は問題ありませんでした。大学のホームページを見たり、先生や先輩にお話を伺ったりして4つの研究室を候補にあげました。そこまでは良かったのですが、実際にそれぞれの研究室を訪問してみると、自分が予想していた研究と実際の研究が全く違っていたり、研究室の都合で入学受け入れが難しいといわれたりして、なかなか本命の研究室が決まらず、結局研究室訪問を3回もすることになりました。大学院の調査、研究室訪問等を経て進学先を確定するまでには3カ月を要しました。研究室が決まってからは速く、

6月に受験、その1週間後には結果が決まりました。

私が体験から伝えておきたいことは、進学活動で一番大事なのはとにかく情報を集めることだということです。特に、人から話を聞くことが大切だと考えています。先生や先輩はホームページやパンフレットでは絶対に分からない情報をご存知です。研究室訪問は、推薦はもちろん、学力試験で受験される方も最低一回は行ってください。研究室の教授は研究について詳しく教えてくれますし、受験の相談にも乗ってくれます。機会があれば研究室の学生とも話をしてみてください。先生からは聞くことができない、裏事情を聞くことができるかもしれません。また、運が良ければ過去の大学院試験の過去問も手に入れることができます。

最初は研究室訪問に緊張したり、先生や先輩に声をかけることに躊躇するかもしれません。しかし、声をかければどの人も快くお話を聞かせてくれるはずです。積極的に様々な人から話を聞くようにしてください。そうすれば、きっと一人で悩むよりも良い結果が待っているはずです。

それでは、皆さんの進学就職がうまくいくことを願っています。

九州大学大学院

情報電子工学専攻

就職・進学状況 意識から計画、そして行動へ



情報電子工学専攻幹事
情報電子工学科
准教授 新田 貴之

平成22年度情報電子工学専攻2年生は、10名在籍しています。内、就職希望が5名、進学希望が5名という状況です。就職活動は、1名あたり5社前後を受けています。ピーク時は、2～3社の受験を並行して行い、吉報を待ちながら、次に備える日々が続きます。一方、進学活動は、志望先研究室を明確に定めて、1～2校の受験を行っています。概ね第1志望か第2志望の大学院への進学を決めています。

この稿を読む学生の皆さんへ期待する能力をお伝えします。1つ目は、情報を収集し、メモに残す能力を付けて下さい。慣れると、そのドキュメントから何かが見えてきます。気付くことから、物事はス

タートします。2つ目は、スケジュール管理を徹底して下さい。何をいつまでに完了させるか、何から先に行くか、スケジュールリングせずに今すぐに仕事を片づけるべきか。3つ目は、他者との連携を取る能力を身につけて下さい。自分の意志・決定事項を周囲に速やかに伝える能力を持ち、周りの人と楽しく物事を進めて下さい。

上述の3点は、社会人になるまでに身につければ良いと誤解している学生がいます。就職・進学活動は、あなた一人の活動ではなく、先方の社会人の方々と共に進めていく活動です。先様は、あなたと将来共に働きたいかという視点で見えています。皆さんは、「3つの能力を既に備えて」、社会へ歩み寄る努力が必要です。専攻科生の場合、自分自身で行動を起こすことが肝要です。意識をもって、行動に移すと、良い結果が訪れると信じて、活動を進めて下さい。

就職 KDDIテクニカルエンジニアリングサービス、日立プラントメカニクス、富士通、山武、リコーテクノシステムズ中国支社

進学 九州大学大学院、神戸大学大学院（2人）、筑波大学大学院

就職・進学試験体験記

●体験記⑧

就職活動を終えて 情報電子工学専攻2年 小寺 勇司



専攻科入学当初は、大学院進学を希望していました。しかし、進みたい大学ややりたい研究が明確に決まっていたわけではなく、一度社会を見てもみようと思い、1年次の長期インターンシップでは企業へ行きました。そこでプロジェクトに参加させて頂き、働く楽しさを知ったことが就職を決意するきっかけになりました。

就職活動のスタートとして、広島で開催された合同企業説明会へ参加しました。幅広い業種を知ることができたと同時に、質問することで採用試験の面接官となる人事の方々と話す練習にもなりました。年明けからは、企業のWebサイトや進路支援室の“きやりPI”を活用して企業研究や自己分析を進めました。時間の許す限り個別の会社セミナーにも参加して、自分の本当に進みたいと思う進路を模索しました。やはり、Webサイトだけではなく自分の足で歩いて企業を見にいったほうが得る情報は多かったように思います。春か

らは採用活動も本格化し、エントリーシートの提出や筆記試験、面接を受ける日々になりました。

面接に臨む上で、最も大切なのは自己分析だと思います。面接では15分や30分程度の短い時間で自分を伝えなくてははいけません。そのため、自分を様々な視点から見て自分の言葉で伝えられるように準備しておくことが必要です。ただ、客観的に自分を見るときも限界があると思います。そこで、是非周りの友人や先生と面接練習をしてみてください。自分が考えただけでは見つからなかったことをアドバイスしてもらえますし、友人同士で練習し合うことでお互いのモチベーション向上につながると思います。

就職活動中は不安を覚えることが多いかと思います。しかし、自分が成長できる大きなチャンスでもあり、立ち止まらずに動き続けければ結果はついてくるので、前向きに頑張ってください。

富士通

環境建設工学専攻

就職・進学状況

進路決定状況からわかる本校専攻
科生に対する評価の高さ



環境建設工学専攻幹事
土木建築工学科
准教授 古田 健一

2010年度環境建設工学専攻の就職・進学状況は、修了予定者のうち、民間就職4名、国立大学大学院進学6名、地方公務員9名でした。

民間就職ではゼネコン等の採用が少ないため、設備系の三浦工業や、時盛建設・洋林建設といった地元の建設会社に就職を決めています。一人で複数の企業の就職試験に合格する状況もあり、本校専攻科生に対する評価の高さがわかります。公務員就職も例年以上に素晴らしい結果でした。県庁や市役所の技術職に一人で複数合格するケースも多くありました。公務員人気の高い中で、多くの地方自治体に合格者を出した結果からも、専攻科生が高く評価され

たことを示しています。

大学院進学も、昨年度に引き続き非常に素晴らしい結果となっています。長岡技術科学大学大学院(建設工学専攻)、東京工業大学大学院(建築学専攻)、京都大学大学院(社会基盤工学専攻)、京都工芸繊維大学大学院(先端ファイブ科学専攻)、名古屋工業大学大学院(社会工学専攻)、九州工業大学大学院(建設社会工学専攻)に進学を決めています。上記以外に一人で複数の大学院にも合格しており、豊橋技術科学大学大学院、広島大学大学院にも合格者を出しています。いかに本校専攻科の教育が充実し、学生に学力が備わっているかを示しています。

このように、修了後に進路が開けていることが魅力となり、土木建築工学科卒業生の約半数が専攻科に進学しています。今後もこの傾向は続く見込みです。

就職 時盛建設、三浦工業(2人)、洋林建設、山口県、山口県警察、岩国市、周南市、光市、広島市(2人)、防府市(2人)

進学 九州工業大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、京都大学大学院、東京工業大学大学院、長岡技術科学大学大学院、名古屋工業大学大学院

就職・進学試験体験記

● 体験記⑨

きっかけは、インターンシップ。

環境建設工学専攻2年 阿部 亮太



専攻科入学当初は、具体的な進学先は全く考えていませんでした。進学先を決めるきっかけとなったのは、専攻科1年次のインターンシップでした。研修先で京都大学出身の方と話す機会があり、先生を紹介して頂きました。すぐにアポを取り、研究室を訪問しました。研究内容に興味を持ったことは勿論、先生が温かく迎えて下さったこともあり、受験を決心しました。

受験勉強を始めたのは3月です。専門科目の試験があるため、構造力学と水理学を中心に勉強しました。どちらも得意な科目であったため基礎は定着していましたが、過去問を見ると授業では教わらないことが出題されていたので、独学で勉強するしかありませんでした。1つの問題を解くのに1日かけたこともありました。2、3日かけても解けなかった問題もありました。さらには、TOEICのスコアも提出しなければならなかったため、英語の勉強もしました。入試までの半年間、

ほぼ毎日学校に通い、ひたすら勉強に励みました。

学力試験は水理学を選択し、ある程度手応えがありました。口頭試問では、志望動機やコンクリートの専門知識、高専での研究について質問されました。コンクリートに関する質問が中心だったのですが、ほとんど答えられませんでした。しかし、志望動機を明確に伝えることができ、高専での成績も評価してもらえたことがプラスになったと思います。また、研究室訪問を含め二度、先生とお話する機会があり、そこで良い印象を持って頂けたことが合格につながった大きな要因だったと思っています。

大学院進学を考えている皆さんは是非、研究室訪問に力を注いでもらえればと思います。そこでどのような話をして、自分をいかに知ってもらえるかが重要です。

京都大学大学院

卒業生だより

見せてもらおうか。 徳山高専の学生の性能とやらを

機械電気工学科 第8期卒
広島市立大学
大学院情報科学研究科 教授 石光 俊介

私の名前は今でも道場に残っていると聞く。だが、剣道部では幽霊部員だった。当時は新聞同好会(今はないんだろうなあ)に所属し、文集“高城”第6号の編集に携わった。その編集時に討論会を開催した際、先輩が“高専に入ったのは大学に入るためだ”と豪語したのに衝撃を受け、何も考えていなかった私はそれに倣って大学へ進学した。豊橋技術科学大学である。大学ではシステム工学の研究を志すも、配属時のゴタゴタで希望していなかった研究室に配属され、そこから現在も続いている音響工学の研究が始まることになる。YAMAHAの音響研究所に修行に行ったり、他学科の実験設備を使ったり、と新任教授の下で好きなことをやらせていただいた。修士論文を書き上げて提出したとき、副査の先生が「これなら博士論文でも行けるぞ!」と冗談を言われたのを真に受けて、その後は博士の学位を目指すことになる。が、時はバブル絶頂期。音響メーカーの雄パイオニアに入社する。そこでは自動車用オーディオの開発を続けながら、土日は論文を書くという日々を過ごした。そして、入社5年目に論文博士を申請し受理された。職場に恵まれたのも大きい。パイオニアでは働きながら博士号を取るものは稀有であり、社内雑誌に載り、ローカル有名人になった。その2年後、身内が倒れたため、山口に戻って、仕事を探さなければならなくなった。そこで徳山高専の卒業研究指導教員だった前園先生(ME電気研究室)に相談に伺うと、“大島商船高専でちょうど求人が出ているから、応募してみたらどうでしょう。”とおっしゃる。その言に従って応募し、なんと大島商船高等専門学校電子機械工学科で助教授として採用していただき、Jターンがなかった。大島商船高専ではロボット同好会の顧問(引率要員)としてあの独特な木彫ロボットを引率して、ロボコン会場にはよく通った。そして、母校徳山高専の鋼鉄製のロボットに圧倒されたもので

ある。そのとき徳山高専は母校と言うより、ライバルという感があった。運動部では空手部と陸上部の顧問も務めた。学生と拳を交えたり、駅伝のアシストをしたり、と今ではよい思い出だ。クラブ顧問はそれなりの達成感が得られる。しかし、それは学生が達成しているのであり、自身が達成したわけではない。教員は研究で達成感を得なければいけないのだ。そこでより研究に注力したいという願望から8年間で大島商船高専をあとにして大学に異動した。

現在は広島市立大学大学院の情報科学研究科で「人間工学研究室」を運営している。人間工学とはいえ、研究としては音響を続けている。ただし、“音のきこえ”に注力した研究である。この「人の感性に基づく音響研究」はうまいこと時流をとらえたようで、大手自動車メーカー等から共同研究の打診も多くあり、忙しい日々を送っている。また、久石譲先生のワンダーステーション・メンバーとレコーディングを行ったり、楽音評価を行ったりと、音響の対象は自動車の音からオーディオまで幅広い。

最近ではME専攻科から平岡君が入学し、彼は趣味と実益を兼ねてゴルフショット音の研究をし、国際会議発表や論文発表など幅広く活躍している。さすがは高専生、専攻科出身であれば卒業研究を2回もやっているのである。相当な性能である。今後も母校からの入学生を期待している。大学生に徳山高専生の性能とやらを見せてつけてやってほしい。先輩として、教員として、待っております。気軽にコンタクト下さい。ishimitu@hiroshima-cu.ac.jp。ただし、セールスはお断りです。

discriminate between codecs in MPEG subjective tests. Apparently the MPEG community has relied heavily on “grand mean” comparisons in the past, which are somewhat crude from a statistical point of view. ANOVA reveals interesting interactions in the data set and can lead to more powerful discriminations between stimuli, or the need for fewer observations to achieve a certain confidence interval. Multiple comparison tests can be controversial in such a hotly contested arena, owing to the number of possible corrections that can be applied in such tests and the difficulty of choosing the right one for the job.

If you don't trust the listener to give you a truthful verbal answer to a question about preference, or regard conventional approaches to quality evaluation as unreliable, then perhaps the answer is brain magnetic field measurements. Shunsuku Ishimitsu of Hiroshima City University attempted to evaluate the effect of different vehicle acceleration sounds on brain alpha wave generation. Quite high correlations were found between various alpha wave features and subject preference, suggesting that such measures can be a useful additional tool in the evaluation of industrial processes. Alpha waves are normally said to correspond to a state of mental well-being or relaxation and have traditionally been associated with the



Author Shunsuku Ishimitsu presents his paper on the effect of vehicle acceleration on brain magnetic field.

Audio Engineering Journal より

卒業生だより

高専5年間で培ったもの

情報電子工学科 第29期卒
慶應義塾大学大学院
理工学研究科 修士2年 木村 優之

私は高専を卒業してから、国立大学に編入し、私立大学大学院に進学しました。高専、大学、大学院と一貫してコンピュータアーキテクチャ、半導体技術について研究しており、チップを設計したり、オシロスコープで波形を観測する毎日です。

編入先の大学でもコンピュータアーキテクチャや半導体の研究はできたのですが、デジタル回路チップを自分の手で作ってみたいという願望があったため、あれこれ大学院を見て回り、そしてものづくりを重視するとある教授に魅せられ、今の大学に移りました。

半導体チップ設計というのは、非常に手間のかかるもので、回路記述言語による設計からチップ全体へのレイアウト、検証から実チップ測定まで、すべて自分たちで行う必要があります。しかも、一つでもミスがあればせっかく作ったチップも動作してくれません。何段階もある非常に多くのチェック項目をすべてクリアし、研究用として性能の発揮できる新規性のあるチップを作らなくてはなりません。それを1~2ヶ月でやらなければならないので、研究室に泊り込むようなことが何日も続くことがあります。そんなことをしていると、高専時代によく部室でロボコンのために夜遅くまで作業していたことを思い出します。

ロボコンだけではなく、5年次の卒業研究や趣味の回路設計、プログラミングなど、高専5年間で様々なものを作って来ました。今思い返すと、そのころから私のものづくりマインドが培われていたのだと思います。理論だけではなく実学を重視する高専の教育方針には非常に共感するところがあります。

さて、高専を卒業してもうずいぶん経ち、大学、大学院と、短いスパンで環境を変えながら生活していますが、どんな環境においても、高専時代に培ったものづくりの知識、技術は役に立っています。

例えば、昨年には研究室で開発したデジタル回

路チップと、評価ボード、電源や機材などをオーストラリアまで持ち込んで学会でデモンストレーションをしました。海外まで大量の機材を持ち込むというのは、非常に大変なことです。海外は日本と電源電圧が違う、輸送中に壊れる可能性がある、そもそもどうやって持ち込むのか…などなど。そういう意味で、ロボコンで会場までロボットを運ぶのとよく似ています。その頃の失敗経験を思い出しながら同じ失敗を2度と繰り返さないように気をつけながら準備をしたものでした。結果、オーストラリアという日本から遙かに離れた場所で私の開発した回路は完璧に動作し、学会参加者からの反応も好評でした。

様々な（と言うほどでもありませんが）教育機関で学んできましたが、改めて振り返ってみると、高専という場所は、大学にはない非常に実践的な経験を積むことができる場所であったと感じています。高専は大学と比べて先生と学生の間の敷居が低く、また学生の皆さんに多くのチャレンジする機会が与えられています。皆さんも興味を持った分野について、高専という場所を大いに活用して強みを伸ばしていきましょう。

来年度から私は半導体企業に就職し、より実践的なものづくりの技術について学んでいくつもりです。どんなに環境が変わっていかうとも、高専で培ったもの、ものづくりを重んじる心、知識、技術は、自分の強みとなっています。



初めての国際学会（オーストラリア）でのデモンストレーション風景

卒業生だより

チャンスをつかむ人

土木建築工学科 第14期卒
中国特殊株式会社
江村 範久

なぜ私がこの文章を書いているのか？それは、高専主催の第3回中国地区高専テクノ・マーケットで18年ぶりにお会いした恩師、上先生からの依頼であったからだ。卒業後以来の再開であった。

進学校と高専を受験した私は、第1志望の進学校は不合格となり第2志望の徳山高専に合格した。私の兄も徳山高専に行っていたこともあり、有無を言わず徳山高専に入学したのであった。入学した1年目は大学への編入を考え成績こそ振るわなかったが、そこそこ勉強した記憶がある。しかし、2年目を迎えた頃バンドとの出会いがあり、パンクロックに明け暮れる毎日であった。髪型を



変え、髪の毛の色を変え当時のファッションの最先端を走っていた？そんな当時のことを思い出すとなぜ

か笑いが出てくる。

そんな私でも、平成4年春に高専を無事卒業し準大手ゼネコンに入社した。思い起こせばバブルの絶頂期で入社するために苦労した事のない世代だ。合宿所で研修を行った後に、現場に配属された。現場での仕事は造成現場だったため測量業務と写真管理がほとんどで、毎日山の中をかけめぐり丁張りをかけて回った。先輩方の指導のもとに、安全管理や品質管理、原価管理といった管理業務を日々覚えていった。

建設会社へ入社し一生懸命に仕事に取り組んできた甲斐もあり、小さな現場ではあるが責任者として現場を任されるようにもなった。たくさんの方々の出会いとたくさんの方々の協力で今日の私があるのだと感じている。

近年建設業界の経済状況は、下降の一途をたどり続けているが、18年目を迎えた春に厳しい状

況に私は置かれたのであった。従業員3,000名ほどいたその会社も、1,000名の希望退職者を募ったのであった。短期間の間に希望退職の選択を迫



られたのであったが、私は決断し手を挙げた。そして大きな転機を迎えたのであった。

18年目にして新しいことを始めたい、挑戦したい、そんな事を思い私は新たな道を進むことにした。再就職先も決まっていない状況下で新たに会社を見つけるのは大変であったが、現在の周南市にある会社、中国特殊株式会社へ入社したのである。現在勤めている会社では、技術開発部として新規事業を探索し、新規事業に向けての研究や分析を行っている。まだ私の挑戦は始まったばかりではあるが、これまで積んできた経験と、人脈を生かし新しい事業に向けて、あるいはこれからの人生を楽しんでいけるよう頑張ろうと思っている。

最後になりますが、学生生活、社会生活の中では色々な選択を迫られる時期が必ずあります。それをチャンスにつなげていくのか、ピンチにしていくのかは、自分自身の考え方で変わります。今置かれている状況をとにかく前向きにとらえ、これから将来楽しい人生を送ってほしいと思います。



徳山高専同窓会「高城会」から 各地の同窓会の様子をお知らせします

高城会理事長：田村 隆弘 (CA1期)

徳山高専卒業生、すなわち高城会会員も4,200人を超え、全国（全世界？）で頑張っています。が、今回は、地元？で頑張っている人たち（東ソー(株)、周南市役所、(株)トクヤマ）から、メッセージを頂きました。

■東ソー株式会社グループ 徳山高専OBの近況紹介

東ソー(株) 設備管理部
北村 和則 (ME 2期)

卒業生並びに在校生、教職員の皆さん、お元気ですか。地元周南で働く東ソー株式会社グループの高専OBです。2008年のリーマンショックを契機とした世界同時不況も、旺盛な中国需要もあり、著しい業績回復で設備増強等多忙な日々を送っています。

ところで皆さん、東ソーのことをどのくらいご存じですか。東ソーは、国内の大手総合化学メーカー6社の一つで、売上高は国内の全化学メーカーの中で全国で10番目です。また、製品出荷額は、県内ではトップです。生産能力は、電解、塩ビ、ポリウレタン、エチレンアミン、ジルコニア等で国内トップ、アジアでもトップクラスです。現在、太陽光発電や二次電池向けの施設増強に着手中です。また敷地面積、発電施設は単一事業所では国内トップの規模です。

当社の高専OBは社内エンジニアリング部門ではマネージャーとして主役で活躍しています。また、周南地区、山口県内、西日本地区のメンテナンスや認定保安検査部門では幹事会社としてリーダー役を務める等高い技術力を評価して頂いています。残念ながら近年、後輩の入社が途絶えておりOBとして残念でなりません。以下、当社で働くOBの方の仕事ぶり、近況を紹介しますので、少しでも興味を持った方は、我々と一緒に地域の先導役として技術革新、地域貢献、活性化に手を貸して頂けませんか。女性技術者も大歓迎です。社風は自由闊達な所があり、果敢に挑戦する意欲のある方、向学心のある方はぜひ志願してみてください。

《近況》

1. 徳山高専OB在籍数

社内35名（南陽地区31名、四日市地区1名、東京本社3名） 南陽地区内訳：ME13名、IE9名、CA9名 →うち、管理職（課長クラス）10名

2. 職場

①エンジニアリング部門 13名（機械5名、電計

6名、土建2名）●業務～プラント建設、設計、設備管理（検査、保全、システム開発）、技術検討、申請業務●7名は管理職としてマネジメントに従事、地区の代表幹事として講師や取纏めを行っています。●出張が多い（技術打合せや検査立会で多い人は200回/年（海外含む：最近は中国が多い））●個人の守備範囲が広く、幅広い知識と技術力、技量が要求されるスケールの大きい職場です。●資格取得にも注力（各人10個前後取得、高圧ガス甲種機械は全員取得、他に一級建築士、エネルギー管理士、電気主任技術者、溶接管理者、公害防止、非破壊検査技量認定 他多数）

②製造部門 12名（管理職1名、技術スタッフ1名、オペレーター10名）●業務～生産計画、品質●原単位管理、プロセス改良、トラブル解析、運転管理（計器監視、パトロール等）●オペレーターの方は、職場のリーダーとして活躍しています。現場経験を積んだ後、製造スタッフ或いはエンジニアリング部門へ配転し、キャリアアップしていきます。

③東ソーグループ 6名（東ソーから機能分社した会社へ出向）●業務～関連会社の工務、臨床検査機器の開発、情報システムの開発に従事、管理職2名

*就職関連、会社概要等何でも構いませんので連絡をお待ちしています。



東ソー(株) エンジニアリング部門のOB(1～28期生13名)

■周南市役所の近況

私は徳山高専を卒業して周南市役所へ就職し、市有建築物の設計・維持・管理の仕事をしています。入庁して3年目になり、少しずつ職場・仕事に慣れてきました。難しいと感じることもありますが、何とか仕事は順調に取り組んでいます。



周南市建築課の高専OB

社会人となってまだ間もない私ですが、会社では仕事のつながりだけではなく、人とのつながりもとても大切だと感じました。年齢の異なる人や様々な考え方をを持った人たちと関わりながら仕事をしていると、自分の新たな一面を発見でき、視野が広がります。その人とのつながりという面で、周南市役所には現在、徳山高専出身者が51名もいて、とても恵まれた環境にあります。仕事の事でもプライベートの事でも何でも相談しやすく、とても働きやすい職場です。おかげで、スムーズに職場に慣れることができました。まだまだ学ぶことは沢山ありますが、周囲の人たちに助けられながら、やりがいを持って

周南市建築課
幡部 匠 (CA30期)

仕事することができています。

また、学生と社会人では時間の意識に違いがあることを実感しました。限られた時間の中で常に次に何をするのか先を見通して行動しなければなりません。普段の生活の中でも時間を意識して過ごしてみると、一日が短く感じると思います。私が時間を意識しながら行動できていると思う人は、仕事と自分の時間を上手に区別しながら過ごしているように思います。オンとオフの切り替えができていて、自分の時間も大切にしています。自分の時間を充実させることによって、心身ともにリフレッシュすることができて、仕事にも意欲的に取り組むことができるように思います。

みなさんも勉強でも遊びでも何でもいいので、一つでも夢中になれることを見つけてください。興味を持ったことが多いほど、多くの人と話をしたり、ともに趣味を楽しんだりするきっかけが広がり、人とのつながりを広げることができると思います。その人とのつながりは今後、仕事の上でも自分の強みになると思います。学生だった時には気づかなかったのですが、今振り返ってみると、夢中になれることを見つける過程は、自分と向き合い、自分の将来を考える良い機会だと思います。興味を持ったことにはどんどんチャレンジし、自分を高める習慣を身につけてください。社会人になっても自己啓発・自己研鑽は一生必要ですが、時間に余裕のある学生時代こそ、その習慣を身につけるチャンスだと思います。

残りの学生生活を有意義なものにし、学業や部活動など、あらゆる面で完全燃焼してください。

■株式会社トクヤマ高城会

私は、2007年に徳山高専専攻科の環境建設工学専攻を修了した後、大学院を経て2009年に株式会社トクヤマに入社しました。現在は生産技術部門施設グループという部署に席を置いており、プラント設備の建設や維持、管理業務に携わっています。まだ入社2年目でもあり、様々な方々の力添えを頂きながら日々勉強の毎日を送っています。

さて、弊社には徳山高専を卒業し就職された方が沢山おられ、現在約70名の諸先輩方がトクヤマの様々な部署で働いておられます。そして、「トクヤマ高城会」と呼ばれる懇親会を定期的で開催し、職

(株)トクヤマ
中村 淳一 (CA27期)



(株)トクヤマ高城会2010年度新入社員歓迎会

場・年代を越えた交流の場として毎回大いに盛り上がっています。社内でも他の高専や大学別で懇親会が組織されておりますが、中でもこの「トクヤマ高城会」は、他にはない活気と団結力で一大派閥！？となっています。

この会は、仕事で分からなかったこと等を気軽に質問することもできますし、学生時代の話で盛り上がることもあり、私にとっても大変貴重な時間となっています。私が思うこの会の魅力ですが、前述したように、とにかく組織や年代を越えて話しができ

ることだと思います。ここまで同じ学校の卒業生が多く就職されている会社も少ないと思います。また、選りすぐりのメンバーだけあって、仕事の話、プライベートの話、そして高専の話と何でもこいの会です。在学中のみなさんの中から弊社に入社された方がおられましたら、入社直後にさっそくお声を掛けさせていただきます。最後に、「トクヤマ高城会」を代表しまして、一言皆様にメッセージを送らせていただきます。

私達は元気です！

■高城会本部から

ホームページが充実してきました！

同窓会事務局 吉川 美奈 (IE14期)

高城会からの情報を発信するツールとして、立ち上がったホームページ。今までは、高城会事務局からのお知らせがメインでしたが、同窓生からの発信が加わり、内容もより充実してきました。



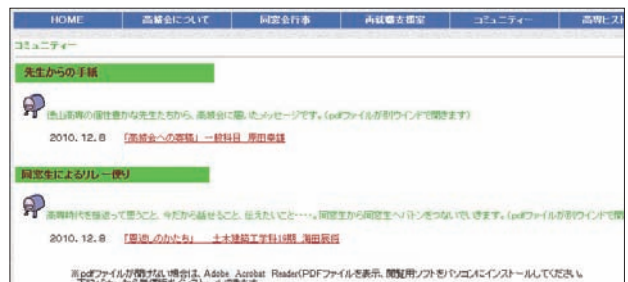
高城会ホームページ <http://www.takajokai.jp/>

●つながる・ひろがる



色々な地域や職場で開かれている同窓会や親睦会の様子をお伝えする「つながる・ひろがる」。高城会活性化の核となる地域や職場をご紹介します。同窓生同士の繋がりや交流を深めることを目的とした会であれば、掲載することができます。(様子が分かる写真と記事が必要です。情報をお寄せ下さい。)

●先生からの手紙 ●同窓生によるリレー便り



高城会へのメッセージをリレー形式でつないでいく「先生からの手紙」と「同窓生によるリレー便り」。平成22年度の理事会で、トップバッターを決定し、12月にスタートしました。次はあなたの番かもしれません。

邂逅



一般科目
教授 室長 大應

徳山高専に赴任してあっという間の15年間でした。多くの方々に支えられて、最終講義まで辿り着くことができました。片道72kmの長距離通勤も、振り返れば楽しい思い出です。しかし、広島での科学教育、情報教育の研究や実践研究に比べ、一般科目の物理学の授業や地域貢献を中心とした勤務は予想を越えた厳しさもありました。

徳山高専での第1日目、「技術者基礎教育にとって学生の物理離れは看過できない課題です、一緒に頑張りましょう」、大山超校長の訓示を今も鮮明に記憶しています。物理事象を身近なものとして捉え、その経験的事実に基づいて物理学的に考えることができる学生になって欲しい、その願いから、ワゴンを用いて教室への出前実験を始めました。学生に興味・関心を持たせることができそうな身近な物理実験を工夫し、器具や装置を準備して実験する、そんな生活が最終講義の前日まで続きました。4年前の校舎改修のときには、ボイラー室の準備室から坂の上のプレハブ教室までの雨や雪の日の運搬は、私を消極的にさせましたが、教室までの運搬を手伝ってくれる学生に励まされて、最後まで続けることができました。校舎改修後は、実験教室と講義教室を兼ねた設計の実験室で授業ができるようになりましたが、便利になり実験回数が増えれば増えるほど学生の反応が少なくなったのは残念なことです。

校務では、学寮のお世話を4年間させていただき、そこでの寮務関係の教職員のみなさん、多くの寮生との出会いは私の宝物の1つとなりました。毎月のアSEMBリ、とおのやまハイキング、卒寮式、また、中国電力山口支社のご支援による山陰や唐津への研修旅行などの新しい試みは、多くの出会いとともに、楽しく思い出されます。

寮務主事室のほか、教務や、eラーニング推進支援室の校務でも多くの方々のお世話になりました。教務での学校訪問では、地域の先生方との交流を、eラーニング推進支援室の対外的な活動は、長岡技術科学大学を主管校とするeHELP（eラーニング高

等教育連携）の加盟校の先生方との交流や、高専ITコンソーシアムの委員として、多くの高専の先生方やメディア教育開発センター（NIME）の先生方との貴重な交流を深めることができました。また、学内のWebClass-TCTの立ち上げでは卒業生の支援までいただきました。

アーチェリー部では、佐伯国際アーチェリーランドに大変お世話になりました。戸野慎治さんには日々の部員の指導や合宿だけではなく、本校主管の西日本地区高専アーチェリー競技会の開催にあたって、全面的に支援をいただきました。とくに、個人競技の傾向が強いアーチェリーで、第13回競技会で念願の男子団体優勝を勝ち取ることができたことは、わたしの自慢の1つです。また、クラブ活動としてのアーチェリーの価値を認めてくれた5年生の部員や卒業生たちが、平成21年夏の徳山高専主管の第18回競技会を、それまでにない最高の競技会にしてくれたことは生涯忘れることがないと思います。

また、JST（科学技術振興機構）のサイエンス・レンジャー（SR）としての科学技術理解増進活動における出会いも忘れることはできません。SR立ち上げに貢献された西潟千秋さんをはじめとする全国の多くの先生方との出会い、寒風吹き荒ぶ科学未来館工事現場の視察、完成した科学未来館での2泊3日の研修などは、若い先生方と科学することの厳しさ楽しさを体験するにあまりあるものがありました。また、SPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）の活動の1つとして山口徳地少年自然の家で実施したプロジェクト「ざっ！「炭」」では、今は亡き防府の炭焼き名人佐古進さんの献身的なご指導を得て、参加の子供たちと楽しく炭を焼き、その炭についての探究を楽しく行うこともできました。

このような、多くの方々と価値により、ようやく人生の区切りに到達することができたことを心から感謝いたします。

退職にあたって思うこと



一般科目
教授 原田 幸雄

いつかはこの日がと思いつつ、いよいよ定年退職を迎えることになりました。私は大学、大学院時代を九州で過ごし、昭和49年に故郷徳山に高専が創立されるということで赴任いたしました。当時はここ高城に校舎は新築中で、旧富岡小学校を校舎として、旧加見小学校を学寮として使用していました。私自身の教育経験は浅く、授業も学生指導も戸惑うことが多々ありました。それでも学生、教員共々これからがスタートで何もかも自分たちが立ち上げ、創っていくのだという気概が満ちあふれていたように思います。そして何より日本が原材料を輸入して、新しい技術開発で物を作り、できた製品を輸出するという工業国としてとても輝いていた時代でありました。したがって、5年間学ぶことによって即戦力を身につけ、中堅技術者として役にたつ人材の育成をめざすという工業高専の役割が必然的に求められていた時代であったわけです。宇部高専は私が高校に入学した年に開校し、山口県に2校目の工業高専としての徳山高専は宇部高専とは違った分野での教育、特色が求められたと思います。

高専で学ぶ数学で最初につまずくのはサイン・コサインの三角関数からでしょうか。中学校までの1次関数、2次関数であれば x に適当な値を代入するとそれに対応して視覚的にもよく解る値が定まりますが、三角関数では角度を実数（なぜか π がついている）で表し、それを代入すると $1/\sqrt{2}$ 、 $1/\sqrt{3}$ などの値が対応するわけですから解りにくいのが当然です。でも勉強をしていく内にこれが数学なのかと思う人もいたことでしょう。どんな分野でもそうですが、奥行きは深く勉強した人にしかわからないおもしろさがあると思います。また、徳山高専が目標としている「実践力のある技術者として社会に貢献できる人物」に近づくためにも数学という基本的な学問は必要なものです。地道に努力することで工学系の専門書も理解できます。高専のよいところはいわゆる大学受

験のためのスキルを身につける勉強ではなく、3年間で学んだ一般教養科目をそのまま専門教科に生かせるように教育課程が設定されているため、短期間で専門的知識を身につけることができるということです。反面、文系教科がおろそかにされがちなところもありますので、そのあたりは、学生諸君の奮闘を期待するところです。

学生指導についてですが、寮務主事、学生主事、HR担任などを通して多くの学生に接してきました。15歳で親元を離れ、学寮での共同生活をすることは、人間形成に役立ってきたことでしょう。学生主事は60歳になってからの仕事でしたが、せめて学生時代は学校の校則を守り、学生らしい、清潔感あふれる身だしなみをするることによって、地域社会からより一層高い評価を受けてもらいたいという一心で取り組みました。

最後になりましたが、私は放課後になると卓球部の指導のため、ほとんど毎日体育館に通いました。近年、人間関係を作るのが苦手だという学生が増えているように聞きますが、それはクラブ活動に参加することである程度解消できるのではないのでしょうか。クラブ活動は、受け身の授業では発揮することのできない自主的な活動の場であり、学年、クラスを超えた多くの人達と切磋琢磨することにより自然に人間関係の築き方を学ぶことができる場でもあります。平成18年には、山口県代表としてインターハイに出場し、平成22年には全国高専体育大会で6度目の優勝をいたしました。本校教職員の方々、学生諸君、そして御父兄の皆様方に感謝の気持ちで一杯です。37年間の長きに渡り大変お世話になりました。ありがとうございました。

思ひ出

この3月末で無事に定年退職を迎えることになりました。思い起こせば、24年前国鉄の分割民営化により転職するか迷っていたところ、運良く本校に採用されることが決まり、文部技官（現技術職員）として学生課実習係（現 教育研究支援センター第1技術室）に配属され工作実習、創造製作、教育研究支援等の職務を担当してきました。

はじめての工作実習では学生にうまく指導が出来るのか心配と、緊張で精神的にかなり疲れ果てた事を今でも思い出します。国鉄時代は依頼された製品を図面通りに製作することに専念し、指導する機会はほとんどなくてその難しさを痛感しました。これを乗り越えることができたのも機械電気工学科、実習系の教職員の方々のご支援、ご協力のお陰だと大変感謝しております。実は20数年経った今でも実習指導については未だ試行錯誤の連続です。



さて、私は年に数回スキーに行っているのですが、50歳前後の頃体力が衰え休憩ばかりしているスキーになっていました。その頃山登りをやらないかと誘われ、健康の為と、足腰の鍛錬になると思い誘いに乗ることにしました。更に、スキー仲間であるスーパー爺さん達と出会い、体力差を痛感し体力増強を図る必要があると思って誘いに乗ったのも理由のひとつでした。

登った山は九州の山がほとんどですが何度登っ

教育研究支援センター
技術専門職員 西山 芳明

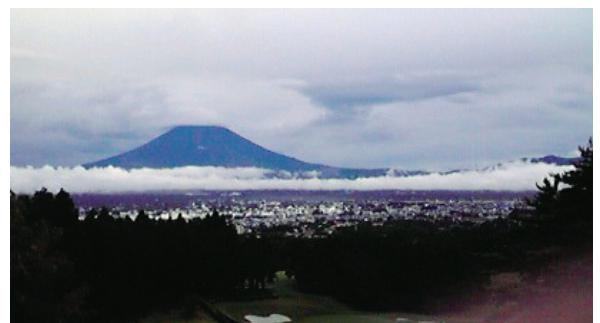


ても登りたい山ばかりです（阿蘇根子岳を除いて）。

最近の5年間で開聞岳、韓国岳、高千穂峰、久住山、阿蘇高岳、阿蘇中岳、阿蘇根子岳、阿蘇烏帽子岳に登りましたが、どの山も印象深い山ばかりです。なんと言っても春のミヤマキリシマ、秋の紅葉は絶景です。又、下山してからの温泉巡りも楽しみのひとつです。もう一山ありました。富士山に何度休憩したか記憶にない状態で5時間15分掛けて登りました。因みに、スーパー爺さん達は3時間余りで登っていて私を2時間以上山頂で待っていてくれました。恐るべしスーパー爺さん達です。では、なぜ山に登るのか「そこに山があるからさ」とよく言われていますが、私の場合「山頂でビールを飲みたい」誘惑に駆られて山登りをしているのが本音です。きつい思いをして山頂にたどり着いた時の爽快感と、ビールのおいしさは言葉に表すことができません。敢えて登山といわず山登りと記した理由がおわかりかと思えます。ただ、富士山頂ではビールを飲む気にはなりませんでした。おそらく軽い高山病だったのかもしれないかもしれません。山登りははじめて体力の鍛錬にはあまりなってはいませんが、体力の現状維持にはなっていると思っています。

最後になりますが公私共々、24年間無事に過ごすことができたのも皆様のご支援、ご協力のお陰だと大変感謝しています。又、徳山高専の更なるご発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。

長い間ありがとうございました。



36年間の思い出

総務課
課長補佐（庶務担当）
中元 雅人



私が本校に職員（その当時は文部事務官）として正式採用となり教務係へ配属されたのは昭和50年4月1日だが、昭和49年5月1日から事務補佐員として勤務していた。平成23年3月31日の定年まで36年あまり徳山高専で勤務したことになる。昭和49年度は教職員も少なく、教員（旧教官）が校長以下13名、職員（旧事務官等）が事務長以下12名、その他非常勤講師6名、事務補佐員4名の構成であったと記憶している。

昭和49年から50年3月までは校舎・寄宿舎とも廃校となった小学校を改修して使用した。校舎は、旧富岡小学校（旧徳山市下上）で新南陽（旧富田）駅からバスで数分かかり小高い丘の上にあった。バス停から曲がった石段を登り正門に入った所がすぐ運動場で狭くて、しかも中央近くに松の大木が立っていた。自転車通学生は、校舎裏の坂道を通っていた。寄宿舎は、校舎から約2キロさかのぼった所にある旧加美小学校で、教室に畳を敷き1部屋6～7人の定員であった。

この11ヶ月間は記憶に残っている出来事が多い。1番鮮明な記憶は、第2回学力試験で徳山高専の校舎を借り受け実施することになったことである。前日は大雪が降りかなりの積雪であったが試験当日は朝から好天で雪も溶け始め、学力検査は無事終了した。しかしながら、試験終了後から再び雪が強く降り積もりはじめ、試験のために準備した備品等を2tトラックで本校に持ち帰る際に国道、県道等はある程度普通に走行できたが、学校手前の300m位の坂道が積雪のため車がスリップしてなかなか進まず、40分近くかかりようやくたどり着いたことである。7月には、山口大学附属光中学校の校庭につづく海岸での水泳訓練。10月には学生、教職員全員が参加しての運動会と小規模世帯ではの楽しさ、おもしろさがあった。

昭和50年3月末に現在の学校所在地（旧徳山市久米高城）で第1期工事が竣工し、教室・管理

棟、第1体育館、寄宿舎等が使用できるようになり、50年4月に現在地へ移転した。

また、平成19年度には教室・管理棟の耐震改修及び全面改修が決定され、8月に学生はプレハブ校舎へ、一般科目教員はテクノセンター棟等、職員は剣道場及び福利センター等へ移転した。工事中の駐車場は徳山大学駐車場の一部を借用した。翌20年3月、工事が完了し改修後の教室・管理棟へ移転した。平成20年度になると、専門科目棟西側の耐震改修及び全面改修が決定され、また8月に再び大移転となり専門科目教員は教室・管理棟大会議室や学寮供用場所等へ移り、平成21年3月に工事が完了し新建物へ戻った。何かと騒がしい、忙しい2年間であった。

業務の中で1番記憶に残っている時期がある。平成4年度から11年度までの8年間の学生課の期間である。特に4年度から7年度までの寮務係の4年間は、通常業務だけではなく学寮周辺の草刈、樹木の剪定、厨房器具の修理等様々な経験をさせてもらった。この時期、寮生数は120名前後、その内女子学生が8名前後で、名前と顔を覚えるのも容易であった。平成4～5年頃は4・5年生には強者もいておもしろい時期であった。学寮行事も4月の入寮式で始まり、寮生総会、新入寮生歓迎マッチ、大華山登山、卒寮式等があり土曜・日曜の開催も多く大変であるが、和気藹々であった。女子寮も最初は西側1階だけであったが、平成6年3月には西側2階も女子寮に改修し女子寮生数も増加した。

その後、平成8年度から11年度までの教務係の4年間は、7年度に専攻科が新設されたことにより業務量は増えたが、新鮮な業務が多くなり私自身も勉強になり充実した期間であった。

この36年間で心残りが1点ある。それは学生係と図書係を経験できなかったことである。

新 任 者 紹 介



一般科目 准教授

きくち あきお
菊池 秋夫

●ご出身はどちらですか？

栃木県の北部（大田原市）、田んぼが広がる関東平野で子供時代を過ごし、親の転勤で千葉に移り、大学卒業まで過ごしました。大学院は仙台、仕事は青森と北上を重ねました。

●本校にこられる前はどちらに？

本州最北端、青森県の八戸高専です。

●徳山高専の印象は？

挨拶をきちんとする学生が多いことに驚きました。学生の気質そのものは、案外、八戸に似ていました。

●ご趣味はなんですか？

旅行です。知らない場所を訪れて自分の中の地図を広げること、また、既知の場所も今まで気づかないことを発見して、地図を塗り替えるのもとても楽しい作業です。

●今後の抱負をお聞かせください。

1年という限られた時間ですが、レベルの高いスタッフや優秀で前向きな学生に恵まれた環境を最大限に生かし、徳山高専の発展に貢献したいと思います。

*高専間の人事交流で来られました。(H22.4月～H23.3月末)



情報電子工学科 助教

こが たかのり
古賀 崇了

●ご出身はどちらですか？

福岡県久留米市です。

●本校にこられる前はどちらに？

大学や研究所で研究員をしていました。山口県での生活は今年で3年目になりました。

●徳山高専の印象は？

高専から見える街と海など、あまりの景色のよさに感激しました。また、学生さんが礼儀正しく、大変良く挨拶してくれることにも驚きました。

●ご趣味はなんですか？

結構多趣味なのですが、最近では旅行先で風景写真を撮ることが主な趣味になっています。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生の皆さんの役に立ち、徳山高専の発展に尽くしていきたいと思います。



新 任 者 紹 介



土木建築工学科 准教授

めやま なおき
目山 直樹

●ご出身はどちらですか？

山口県下関市です。

●本校にこられる前はどちらに？

建設コンサルタントに18年勤務していました。専門は都市計画です。東北、中国・四国、九州などの27県で仕事をしてきました。

●徳山高専の印象は？

学生も教職員も明るく、穏やか。落ち着いた中にも活力を感じます。

私は本校の卒業生ですが（CA6期）、女子学生が多いことや専攻科があるなど、私が過ごした徳山高専とは別の学校のように思えます。いまの高専は、自分を輝かせるステージがいくつも用意されており、充実していますね。

●ご趣味はなんですか？

クラシック音楽の鑑賞、写真・カメラ、まちかどの定点観察、旅・歴史散策、観劇、読書、観葉植物の世話、そして、家族と過ごすこと。

●尊敬する人物はどなたですか？

吉田松陰、乃木希典、そして、私の父です。

●今後の抱負をお聞かせください。

「技術をもって社会に問う」：20代のおわりに出会った技術者に頂いたメッセージです。この姿勢を持ち続けたいと思います。

「地域に生きる、地域をつくる」：山口県下や周南地域で、次の時代の都市や建築のあり方を考え、活かしたいと思います。

「自分探しの旅」：OBとして、自分が悩んだり、経験したことをふまえ、みなさんの「自分探し」をお手伝いできればよいと考えています。人生は「出会い・発見・感動」そして「行動」です。まだ赴任して1年足らずですが、いくつもの感動を体験しました。感謝。



教育研究支援センター技術職員

ふじもと たつや
藤本 竜也

●ご出身はどちらですか？

山口県周南市です。

●本校にこられる前はどちらに？

高専専攻科の学生でした。

●ご趣味はなんですか？

趣味はコンピュータと電子工作です。最近は、モノを作ることがなかったので、また何か作ってみようと考えています。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生実験のサポートなどを行っています。しかし、まだまだ学生の質問等に的確に答えられないことや、内容の理解が不十分な点があります。まずは、日々勉強しながらこれらの点を少しずつでも解消して、研究や学習の役に立てるようにしていきたいと思っています。よろしく願います。



総務課課長補佐(会計担当)

ながひさ ひでお
永久 英雄

●ご出身はどちらですか？

生まれも育ちも山口県山口市です。湯田温泉近くに住んでいます。

●本校にこられる前はどちらに？

山口大学一筋です。30数年間という永きにわたり、学生関係と会計関係の事務を執ってきました。

●徳山高専の印象は？

やはり①到着直前の約1 kmに登り坂はきついです。皆さんほんとご苦労さんです。②大学生と違い徳山高専の学生さんは挨拶してくれるので嬉しいですね。

●ご趣味はなんですか？

「旅行」です。中国・四国・九州はほとんど観光しました。

最近行ったところではよかったのは「高千穂峡」です。途中「清和文楽」を鑑賞したのですがとっても興味深かったです。

●今後の抱負をお聞かせください。

早く慣れること。大学と異なる扱いがあり戸惑うことがあります。片道50数kmを無事故で通勤し、一所懸命努めさせていただきます。

*山口大学から人事交流で来られました。(H22.10月～)



総務課総務係

たかお なおむ
高尾 直睦

●ご出身はどちらですか？

山口県周防大島町です。

●本校にこられる前はどちらに？

山口市で大学生をやっていました。

●徳山高専の印象は？

眼前にひらけた空、眼下には周南の街を眺めることができ、とても素敵な場所だと思います。

●ご趣味はなんですか？

旅行です。知らない土地の、閑散とした神社の境内でぼーっとしたり、由緒を読んだり、お賽銭を投げたりしては癒されています。

●今後の抱負をお聞かせください。

社会人となって日も浅く、勉強不足で至らない点多々あるかと思いますが、徳山高専の一員として頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。



平成22年度徳山高専きらめきコンテスト

入選

小説 『夏の空を見上げて』

機械電気工学科2年 澤田 拓実

一瞬、夢ではないかと思った。僕の目の前には、少女が一人佇んでいる。空を見上げるその姿に、しばし見とれた。

「誰………」

少女が振り返る。

それが、始まりだった。

振り返った少女を見て僕は違和感を感じずにはいられなかった。しかし、その違和感の正体はすぐにわかった。彼女の両目には、光が映っていなかった。

「空を見ていました」

僕には、本当に彼女が見ているものはよくわからなかった。ただ、彼女が空を見ていたことだけは、よくわかった。僕も隣で空を見上げる。彼女よりも低い視点から見上げる空は、なぜか僕の目にはきれいに映った。



僕は、幼い頃に事故に遭ってから足の自由を失い、車椅子での生活を送っていた。親はその事故で亡くなった。車椅子の生活になって、高校進学はあきらめた。若干後悔していることだが、その時は車椅子への偏見があって、とてもじゃないが高校へ進学する気にはなれなかった。でも、毎日のようにきてくれる人がいるから寂しくはない。幼なじみの祐、身の回りの世話をしてくれる瑞穂さん。ふたりのおかげで、僕は今でも不自由なく暮らしている。

瑞穂さんはよく僕にこう言った。

「今は助けられる側かもしれないけど、いつかあなたが助ける側になるかもしれない。その時は、全力で力になってあげるのよ」

僕はその意味をよく理解できなかった。今も、よく理解できないでいる。きっと、いつかわかると思っていた。でも、わからないまま、長い時間が過ぎていた。

次の日も、その次の日も、彼女は同じ場所に来て、同じように空を見上げていた。いつの間にか、彼女の隣で空を見上げて、彼女が何を見ているの

か考えるのが、僕の日課になりつつあった。静かなこの場所で、何も言わずに空を見上げることが。「なにか、見えました？」

彼女が口を開いた。初めて聞くその声はきれいで、でも、消え入りそうだった。

「青空と雲が少し」

そう答えると、彼女は微笑みを浮かべて言った。「そうですか」

彼女は短く答えた。「空はどこまでも青く続いていると聞いていました。雲はそこに浮かんでいると」

その先は誰でもわかることだ。だから僕も何も言わなかった。

「教えてくれた人はもういませんし、教えてくれる人もいません」

今日の彼女はよくしゃべった。別に心を開いたわけではない。きっと、しゃべりたくなっただけ。それでも、彼女の紡ぐ言葉が、僕の心にはしっかりと響きわたっていた。

「外出多くなったよな、お前」

その日、瑞穂さんと祐と一緒に町を回った。特に見るものもないが、ただ外に出てみたかった。「昔は家に引きこもってばかりだったものね。外に出るのはいいことだね」

瑞穂さんも、昔はよく引きこもっていたらしい。すごく大事な人との出会いで大きく変わったらしいのだが、詳しくは教えてくれなかった。

「すごく大事な人との出会いでもあったのか？」

祐はこういうときだけ妙に勘が鋭い。確かに出会いはあったのだ。大事な人ではないにしろ、僕が変わっていくのはなんとなくわかる。きっと、彼女のおかげだ。

出会って以来、僕は彼女と長い時間を過ごすようになった。同じ障害を持つ者どうしというものもあるが、どうも同じような雰囲気を持っているような気がして、いつの間にか互いに赤の他人を越えた感情が芽生えていたのかもしれない。

この日、僕と彼女はいつもの場所を離れ、潮風の心地よい海岸線に来ていた。僕が知っている中で一番だと思ふ場所だ。彼女はしばらく潮風に身をゆだねていたが、やがてゆっくりと空を見上げた。

「潮の香り………」

彼女は大きく息を吸うと、ゆっくりと吐き出す。この場所を自分の体に刻み込むように。やがて、彼女は海の方へ目を向けたまま、たった一言、僕に問いかけた。

「名前は何？」

その一言は、ある種の重みを感じさせた。

「僕は智一。夢乃智一」

「私は……夏木志織です」

夏木さんは、薄く淡い笑みを浮かべた。その自然な笑みについ見とれる。今この瞬間に、二人の関係は他人を越えた。ゆっくりと、ゆっくりと、穏やかな風が吹き始めた。

「でさ、その……なあ、聞いてるか？」

祐に言われて我に返る。もうすぐ夏の終わる頃

だ。これからの事を考えると憂鬱になる。

「ごめん、ちょっと考え事してさ」

祐はそうか、とだけ返した。お互いの深い事情は追求しないことが、いつの間にか俺たちの会話のルールになっている。お互い知られたくないものがあるだろうと、祐が提案したことだった。

「そういえば、瑞穂さん引っ越すんだろ？」

それも懸案事項のひとつだ。ずっと世話になっていた瑞穂さんは、夏が終わるとともに引っ越すことが決まっていた。一応身の回りのことくらい自分でできるが、やっぱり不便なのは事実だ。祐は、俺が世話に行こうかと提案してくれたが、丁寧に断っておいた。これから忙しい時期に入る祐に苦勞はかけられない。

「大丈夫だとは思いますが、つらいなら言えよ。いつでも力になってやるから」

こういうところで頼りになるいい幼なじみがいて本当によかったと今でも思う。

僕は、思い切って夏木さんに相談してみることにした。今の知り合いで、唯一頼れるのは夏木さんだけだった。

「……………そうなんですか。車椅子のまま一人で生活するのは大変ですよ」

口調から、彼女も心配してくれていることはわかった。しかし、自分の目のハンデのために、自分ができることが限りなく少ないことを知っているから、どうしても他人調子になってしまう。同じ体にハンデを抱える立場としてはその気持ちが痛いほどわかる。

「幼なじみには迷惑をかけたくないんだ」

僕のわがままで祐を縛るわけにもいかない。難しい悩みだった。夏木さんには負担が大きすぎる。そろそろ、僕も他人に甘えるのをやめる時が来たのだろうか。今が、独り立ちの時なのかもしれない。

「もし、私が助けてあげられたら……………」

夏木さんの悲しい声が、いつまでも響いていた。



夏の終わりは、雨だった。ずっと降り続く雨は、今週いっぱい止まないらしい。

「くそう、ひどい雨だな」

こんな天気にもかかわらず僕の家に来ていた祐がつぶやく。遅すぎる梅雨の長雨に、僕も祐も陰鬱な気分になっていた。窓を叩く雨の音が、だんだんと強まってくる。

「今頃梅雨とか、ありえねーよ。俺、帰る」

祐もついつい悪態をついてしまいたくなるほど、この時期の雨は陰湿だった。

雨は嫌いだ。いやなことを思い出してしまう。泣き声、響く轟音、サイレンの音。雨の日に、ろくな思い出はなかった。僕の脳裏にいつまでもこびりつく記憶。一生忘れることのできない記憶が僕を蝕んでいた。結局、僕は独りだ。

「誰も、わかるわけじゃないか」

たった一人の部屋で僕はつぶやいた。

次の日も、雨は降り続いていた。今日は誰も来

ない。結局、独りで過ごすことになる。家は妙に狭く感じるし、雨の音はいつまでも同じように繰り返される。次の日も、その次の日も、雨は降り続いた。もちろん、誰もいない。孤独な時間が、当たり前のように過ぎていった。そして、一週間が過ぎてても、雨は止むことなく降り続いた。

そして、九月になった。しかし、雨は止むことなく降り続いていた。僕は、傘を片手にある場所へと向かった。そこへ向かうことで何かが変えられる、そんな気がしていた。

そして、彼女はそこに立っていた。それはまるで数日前の僕のようにだった。傘もなしに、たった独りでぽつんと立ち尽くしていた。

「夏木さん」

僕は夏木さんの隣で、彼女を雨から護るように傘を差し掛ける。今ようやく、瑞穂さんの言っていた言葉の意味が分かったような気がした。僕は、瑞穂さんや祐に孤独から救い出してもらったんだ。なら、今度は僕が彼女を救い出す番だ。

「誰か、待ってたの？」

「はい、ずっと」

彼女は笑顔で答えた。いつの間にか雨は止み、雲間から日の光が降り注いでくる。僕は、傘を差したまま、その光景を眺める。

「雨、止みましたね」

「そうだね」

会話なんてなくてよかった。そんなものは必要なかった。僕たちの気持ちは、僕の差した傘と、その下で握られた二人の手が、すべて語っていた。心地よい潮の香りの中、彼女がゆっくりとその言葉を紡ぐ。

「ありがとう」

今年は、なぜかまだ暑い日が続いた。僕は当然学校に行くわけがなく、同じ境遇の夏木さんと過ごすことが多くなった。これといてすることもないが、一人で過ごすよりはましだ。

「祐は今頃学校か」

「あの、学校、行きませんか？外に出るだけでも違うと思いますから」

「……………そうだね」

結局、彼女の提案で学校に行くことになってしまった。学校までの道のりは、夏木さんが心配で心配でたまらなかったが、彼女は慣れているのか、あっさりと学校に着くことができた。

「おい、智一じゃないか。なんで来てんだ？」

ちょうど昼休みだったのか、祐が校門に姿を現した。そして、夏木さんの姿をみて哑然とした。

「なあ智一、その人誰だ」

「ああ、夏木志織さん」

「じゃなくてだな、どういう関係かってことなんだが」

どんな関係か。僕は夏木さんを見て、うつむいた夏木さんの顔を直視してしまって思わず顔をそらした。恥ずかしかったわけじゃない。うつむいた夏木さんの顔が赤くなっていたからだ。祐は僕と夏木さんのそぶりを見て、それ以上は聞いてこなかった。

「じゃあ、またあとでな。俺、もうもどらなきゃなんねえから」

「うん、じゃあ後でね、祐」

祐は校舎へと戻っていった。夏木さんは祐の方をなんだかうつろな目で眺めていた。

「……………うらやましいです。なんだか、祐さんと

話しているときの夢乃くん、すごく楽しそうでした。私も、その中に入りたかった……」
夏木さんは、なんだか悲しそうな顔をしていた。なぜなのか、僕にはまったくわからなかった。

本当にわからなかった。なぜ夏木さんが悲しそうな顔をしていたのか、あの時何を思っていたのか。あれから、夏木さんの表情にも隠しきれない曇りがでてきた。何か悩みを抱えているのだろうか。でも僕は、彼女の悩みを聞くのが怖かった。もし彼女がいなくなったら、僕はまた、独りになってしまうのだから。

ある日突然、夏木さんは体調を崩した。何かに押し潰されたかのように、突然倒れたのだ。僕と祐が病院に駆け込んだ時、夏木さんはベッドに横たわり、すうすうと寝息を立てていた。「いや、焦ったぞ。夏木さんが倒れたって聞いて、すぐに家を飛び出したときは」
「ご、ごめん」

祐は溜め息をついて、それから椅子に座った。
「……夢乃くん、祐さん」
「ごめん、起こしたかな」

夏木さんが目を覚まして、僕と祐の方に顔を向けていた。すると、祐が突然、真剣な面持ちで僕の肩に手を置いた。
「すまん、少しだけ、夏木さんとふたりにさせてくれ」
祐のことだ。なにか事情があるのだろう。僕はうなずいて、病室を出た。

数分後、祐が病室から出てきた。祐は僕とすれ違う時、小さく僕に語りかけた。僕は病室に入り、夏木さんの隣に車椅子を止めた。
「祐と何を話してたの？」
夏木さんは、少しの間目をつむり、決心したの口を開いた。
「来週、手術を受けます」

「後は、お前次第だ」

祐の言葉が鮮明に蘇る。祐はおそらく、僕の代わりに彼女の悩みを聞いてくれたのだろう。恐怖で関わるできないでいた僕の代わりに。
「昔から、私は重い病気にかかっていました。手術で治ると言われましたが、成功確率は五分で、ずっと拒否してきました。でも、夢乃くんに出会って、祐さんと話して、私、手術を受けることに決めました」

夏木さんも、恐怖と戦っていたのだ。孤独よりも強い、死という恐怖と。
「あいつはずっと孤独の恐怖と戦ってきた。俺じゃもう支えきれない。今のあいつにはあんたが必要なんだ。あいつが孤独を克服するためには、あんたが死の恐怖から抜け出さないとなんねえだろ。そう祐さんは言いました」
祐はわかっていたんだ。自分がどうしたとしても、僕の恐怖が晴れないことに。そして、今の僕が、どれだけ夏木さんを心のより所にしていたかを。

「手術の成功確立はかなり低いです。でも、成功すれば、ずっと夢乃くんと一緒にいられます」
僕は、夏木さんの手を握った。そして、その名を呼ぶ。

「志織」

「……はい」

心臓が高鳴る。僕は、ゆっくりと、その言葉を紡いでいく。

「ずっと、あんな日々が続いたらって思ってた。一緒にいられたらって思ってた。だから、手術が終わったら、あの場所で、また会おうよ。その時は……」

「その先は、私に言わせてください」

彼女は僕の手を両手で握り、祈るようにまぶたを閉じる。

「また会えたなら、私は思いを伝えます。だから、待っていてください。私が帰ってくるまで」

ふたりの祈りは、神様にも届くんじゃないか、今はそう思えた。彼女と一緒になら、何でもできそうだ。もう、僕は独りなんかじゃないんだ。

かなり遅れた、秋の訪れを告げる風が、ふたりの病室に吹き込んできた。

翌日、彼女は町を離れ、大きな病院へと向かった。僕は、あきらめていた足のリハビリを始めた。時間はかかるかもしれないが、彼女と同じ目線で、彼女と同じものを見てみたかった。祐は部活で忙しい中、僕のリハビリに付き合ってくれたりしている。お前のリハビリに付き合うのは部活の練習よりきつい、とか愚痴を漏らしつつも、結局は手伝ってくれる。

そして、僕は毎日、彼女と初めて出会った場所で、彼女を待ち続けた。晴れた日も、雨の日も。今度は、僕が待つ側になった。彼女がどんな気持ちで待っていたのか考えると、時間はあっという間に過ぎていった。

そして、一ヶ月が過ぎた。足のリハビリは順調で、今は少しなら歩けるまでになった。祐は、全国優勝したぜ、と僕の家へ部活の部員全員を連れて上がり込み、大祝勝会を行った。その時に、瑞穂さんも引越先から駆けつけ、一緒に祝った。引越先先の環境にも慣れて、今は生来のお節介ぶりを発揮して家庭教師をしているんだとか。

時は流れた。僕はあの場所で彼女を待つ。最初と立場が逆だな、などと思いながら、海を眺める。そして、ゆっくりと近づいてくる足音。

「何か、見えました？」

そこには、間違いなく彼女がいるだろう。僕は、空を見上げて答える。

「青空と、雲が少し」

たぶん、彼女も空を見上げているはずだ。僕は、ゆっくりと振り返る。

「今度は、同じものが見られました」

時間が過ぎても、変わらないものはある。ちゃんと言えるかどうかは不安だけど、約束したからにはちゃんと言わなければ。でもその前に、一言言うことがあるじゃないか。僕は笑顔で、彼女にその言葉を贈る。

「お帰り、志織」

註) 掲載するにあたり、本人の希望により一部作品に加筆、修正しました。

入 選

ポスター

情報電子工学科5年 松本 八希



きらめきコンテスト 第12回の選考経過と講評、そしてこれから

図書館長 森野 数博

10年ひと昔、という。19回続いた「校内読書感想文コンクール」が、平成10年度に、より創造性に重きを置き衣替えした「きらめきコンテスト」も今回で12回目。今年度の応募総数は7編（応募者5名）だった。最盛期には93編（第3回）の応募があったことを考えると、隔世の感がある。

ここ数年、応募数が低迷していることから、今年度は学生図書委員のみなさんの意見をもとに、「やれるだけのことはやってみよう」とPRに努めた。おかげで、ポスターは応募総数が5点に増え、松本八希君（情報電子工学科5年）の秀逸な作品がホームページを飾り、学内の各所で『「浮かんだコトバ」を作品に』と応募を呼びかけた。

応募作品7編のうち、小説・童話部門は3編、詩歌部門は4編であった。審査の結果、きらめき大賞と優秀賞は該当者なし、澤田拓実君（機械電気工学科2年）の小説『夏の空を見上げて』が入選と決まった。

この作品は、障害をもつため心がいびつになりがちな主人公が、同じように障害をもつ同世代の女性と知

り合うことで心の成長を遂げていく様子が、自然な時の流れと合わせ、リズムカルな美しい文体で紡がれている。デリケートな心の描写ができていただけに、脈絡のない人物が途中で登場するなど、一部推敲不十分と見受けられるところがあり、惜しまれる作品であった。

この10年あまり、高専を取り巻く環境は大きく変化した。科学技術の急速な発展に伴い、創造力の育成が求められ、情報技術が社会を席卷するようになった。全国規模のコンテストが次々と催され、情報は瞬時に世界を駆け巡るようになったことで若者の興味は分散するようになり、発表の機会も、発表する舞台も大きく広がった。その意味において、学内を対象とした「きらめきコンテスト」は力試しするに魅力が薄れた面は否めず、ひとつの役割を終えたといえよう。これらのことを勘案し、今年度で「きらめきコンテスト」をひとまずお休みすることとした。

本校が掲げている「世界に通用する技術者」をめざすには、「技術力」とともに、「人間力」の育成も欠かせない。二度とない貴重な青春時代。さまざまな体験をし、喜びや楽しみを味わうとともに、思い悩むこともまた必要。それが心の糧になり、人間を大きく成長させる。学生のみなさんにはさまざまな機会を活用し、さらに大きく羽ばたかれんことを願ってやまない。



高専祭オープニングでの授賞式



図書館時間外開館 補助員の感想

■機械電気工学科5年 中村 友也

約一年間、図書館時間外開館補助員として仕事をしてきて、辛酸甘苦ありながらも大切なことを学びました。それは仕事に対する責任と、パートナーとの連携の重要さです。

これらは、これから社会に出ていく上でとても重要な事であり、補助員を通じて学ぶことが出来たので、大変良い経験を積むことが出来たと思いました。楽しかったです！

■機械電気工学科5年 下松 忠文

1年間補助員をして、図書館には書架の整理や掃除、新聞書き取りなどと、多く仕事があることを体感できました。初めはミスが多く叱られたりもしましたが、振り返ってみるといい思い出になりました。また、蔵書検索をPCでできることを補助員になって初めて知りました。探している本がなかなか見つからない場合は蔵書検索用PCで検索してみよう！

■機械電気工学科5年 森岡 佑太

誰もがいずれ、社会に出ていくことになりますが、補助員の仕事は、確実にその前準備になったと思います。定まった日時に任務を全うすることは、社会人にとって最低限必要なスキルだと思いますが、その訓練をすることができました。これからも、この仕事で得たことを活かして、社会に出る準備をしたいと思います。ありがとうございました。

■情報電子工学科5年 小野田 卓

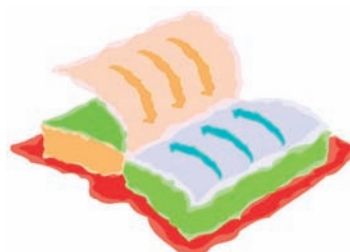
もうすぐこの図書館の補助員のバイトをやり始めて1年が経とうとしています。補助員をやり始めた頃はいろいろとミスを犯していましたが、最近はあまりそういうことが少なくなってきました。1年前に比べて注意力が散漫じゃなくなってきたと思うと少し嬉しいです。

■情報電子工学科5年 重岡 達哉

図書館の補助員を1年間行って、本の整理整頓がとても大変なものだと実感しました。きちんと並んでいるように見える本棚でも全く違うジャンルの本があったり、少しほんの位置がずれていたりと整頓するのは大変でした。補助員の仕事が終わっても本の並びには気をつけたいと思いました。

■土木建築工学科5年 藤江 真生

図書館の補助員をして一番良かったと思ったことは、図書館の良さを誰よりも知ることができたということです。図書館には沢山の専門書や、資格試験の本、郷土資料など、様々な種類の本があり、どれもとても魅力的です。普段勉強するためだけに図書館を利用している方も、是非本を読んで、図書館の新たな一面を知ってほしいと思います。



編集後記

高専だよりの編集作業を行う時期は、学年末試験や卒業・特別研究の追い込みなど皆が慌ただしく過ごす中、卒業する学生達は最後の名残を惜しむような独特の雰囲気在校内に漂っています。

本号では、1年間の徳山高専の旬な活動を紹介する特集を掲載しました。これからの技術者に必須の英語能力に関しては、徳山高専で行われている英語科のユニークな取り組みを国重先生の軽快なインタビュー形式で掲載しました。特集記事からは学生達が楽しみながら、しかし着実に英語力を身につけている様子がうかがえます。また、学生会役員の高専祭を終えての感想、留学生だよりの同窓会「高城会」のページも新しく掲載されており、従来に増して多彩な内容となっています。さらに、卒業生や就職担当教員等からのメッセージには、在校生、保護者の皆様にとって、この先の高専生活を充実させるためのたくさんの役立つ情報が含まれています。

最後に、年末年始のお忙しい中、本号に執筆いただいた皆様、執筆依頼から校正まで協力してくださった皆様に改めてお礼を申し上げます。(K.K)



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構 (JABEE) からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar. 2007

本校は、平成18年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。

徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.64

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834) 29-6200 (代表)
FAX (0834) 28-7605 (代表)
印刷 大村印刷 (株)
発行日 2011年 (平成23年) 3月8日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology
